ごあいさつ

こんにちは。理事長兼学長の宮地良樹です。本冊子にお目通しいただき、ありがとうございます。

静岡社会健康医学大学院大学は、静岡県民の健康長寿の延伸や医療専門職の充実・定着、地域医療のレベルアップを目指して、令和３（2021）年に設立されました。社会健康医学という分野を通じて、実践的な研究を推進し、その成果を社会に還元することを重要な使命としています。

社会健康医学とは、伝統的な公衆衛生学にゲノム医学や医療ビッグデータ解析などの新しい学術領域を加えることで、社会における人の健康を幅広い視点から考究、社会実装する学問です。本大学院では、公衆衛生専門職教育の国際的水準である基本５領域（疫学、医療統計学、環境健康科学、行動医科学・ヘルスコミュニケーション学、健康管理・政策学）のみならず、ビッグデータサイエンスやコホート研究など関連する学術領域も含めた幅広い学識の修得を目指します。

実務経験を持つ社会人学生（医師を含む医療専門職、行政（保健師、管理栄養士など）、企業（製薬、バイオ系、データサイエンス系等））に対し、彼らが日々の業務で感じた疑問や課題を社会健康医学の知識とスキルで解決し、地域や職場でのリーダーシップを発揮することを期待しています。

研究面では、県内の国保連のデータを活用したデータサイエンス研究や静岡コホート研究やゲノム研究、県内各地域の保健師や管理栄養士との公衆衛生・栄養研修会などを実施しています。県からの委託研究費に加えて、外部研究費の獲得にも果敢にチャレンジしています。その成果は数々の論文として結実しており、今後は、知的財産権の創出にも注力して、教員や学生によるスタートアップ創出にも繋げていきたいと意気込んでいます。

宮地 良樹　Yoshiki Miyachi

1951年静岡市生まれ。京都大学医学部卒。ミネソタ大学研究員・天理病院皮膚科部長などを経て、1992年から群馬大学医学部皮膚科教授。1998年から京都大学大学院医学研究科皮膚科教授。2014年から滋賀県立成人病センター（現滋賀県立総合病院）　病院長・京都大学名誉教授。2020年から社会健康医学大学院大学整備推進顧問。2021年から現職。
専門は、皮膚科学/アレルギー学など。

地域との連携においても、積極的に取り組んでいます。これまでに、静岡市、富士市、中東遠総合医療センター、静岡県立病院機構、静岡新聞社・静岡放送などと連携協定を締結しているほか、様々な組織において、委員会への参画や講演会への出席をしています。地域との連携を更に深め、皆さんの生活をより豊かにするウェルビーイングの推進、その礎となる健康寿命の延伸に貢献できるよう尽力しています。静岡県は「静岡ウェルネスプロジェクト」を打ち出し、健康産業の創出を目指しています。本学も企業等との連携についても、より積極的に行っていきたいと考えています。

近年、「リアルワールドデータ（RWD）を通じた社会実装」が盛んに言われています。実際の医療現場や日常生活で得られる様々なＲＷＤを分析・活用し、その知見や成果を、新たな医療技術、医薬品、サービス、あるいは医療健康政策などに具体的に還元し、社会全体に普及・定着させていくプロセスを指します。

産官学連携により、医療の質の向上と個別化医療の推進、予防・健康増進サービスの創出、新たな医薬品・医療機器の開発・評価などに繋げていくことができればと強く思っております。

本学には、様々な edge の効いた教員がおりますので、本冊子をご覧になって関心を持たれた地域産官学のみなさんから是非お声掛けいただきたいと思います。

大学のご紹介

臼井 健　Takeshi Usui

滋賀医科大学医学部卒業、京都大学大学院医学研究科修了
米国オレゴン健康科学大学博士研究員
国立病院機構京都医療センター臨床研究部臨床内分泌研究室長
静岡県立総合病院ゲノム医療センターセンター長
2021 年から静岡社会健康医学大学院大学教授
（併任）慶應義塾大学医学部客員教授
（併任）静岡県立大学薬学部客員教授

研究科長の臼井 健です。私からは、本学の概要をご紹介します。

本学の特色は、理論と実践の統合にあります。講義や演習を通じて最新の知識を習得するとともに、実際の医療・公衆衛生の現場で実践的なスキルを身に着けることができます。また、異分野の専門家と協働し、多様な背景を持つ学生や教員が共に学べる環境を整えています。

さらに、本学では「遺伝カウンセラー養成コース」を設置し、遺伝医療に貢献する専門職の育成に力を入れています。また、「聴覚・言語コース」も設置し、医療・福祉分野で求められる専門職の育成に力を入れています。

学　　科：社会健康医学研究科（単科）
教 員 数：専任教員 27 名、客員教員 25 名（R8.10.1 現在）
学 生 数：54 名（博士課程 16 名、修士課程 38 名）
（R8.10.1 現在）

外部資金による研究やその成果を積極的に発信しています。

本学は、設立後まもなく、教員数も限られていますが、その道のプロフェッショナルが集っています。少数精鋭をモットーに、企業や自治体の皆さまからのお声がけをお待ちしております。

本学 Website

■外部研究費獲得

（単位：件、千円）

区分		2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）
科研費	件数	19	25	30	29	29
	金額	16,580	46,861	65,755	33,671	32,428
受託研究	件数	6	5	6	8	8
	金額	22,297	42,149	23,904	52,080	43,285
共同研究	件数	1	3	2	1	1
	金額	2,850	3,200	700	400	1,900
寄附金	件数	2	3	1	2	3
	金額	1,500	92,000	1,000	1,500	3,600
計	件数	28	36	39	40	41
	金額	43,227	184,210	91,359	87,651	81,213

■静岡県との連携

県委託研究費を本学が受託し、「健康寿命の延伸」を目指した研究を進めています。

また、県の重要政策の一つ「静岡ウェルネスプロジェクト」にも、本学の有する知見を積極的に導入し、「新産業の創出」にも貢献していきます。

エビデンスに基づくEBPM（Evidence Based Policy Making）

政策の立案において、その場限りの経験や勘に頼るのではなく、政策目的を明確にした上で、統計データや研究結果といった客観的な「エビデンス（合理的根拠）」に基づいて政策を設計・評価する手法です。政策の効果を高め、限られた資源を有効活用し、国民からの行政への信頼を高めることを目的として、国をはじめとした行政で推進されています。

静岡ウェルネスプロジェクト

令和７年度から令和 10 年度までの４年間を計画期間とした「第一期静岡ウェルネスプロジェクト」では、地域資源や未利用食材等を活用した未来型食品の開発や、健康・医療データ等を活用したエビデンスやパーソナライズに基づく新たなサービス等の創出に資する取組を支援します。

・食に関する社会課題解決と高付加価値化に資する未来型食品の創出

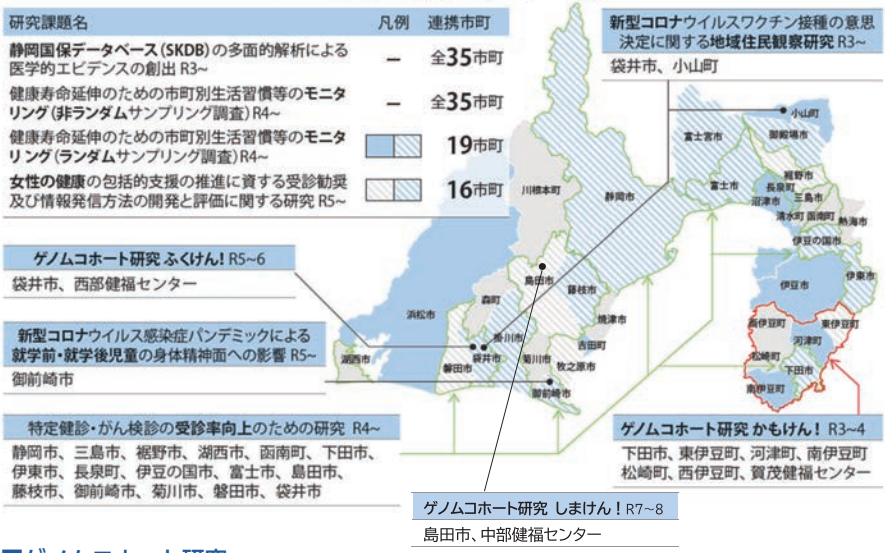
・健康寿命の延伸に資するウェルネスサービス・製品の創出、健康づくりの推進

静岡県 website

鈴木 康友静岡県知事（中央）との記念撮影

■市町をフィールドとした研究

- **県内全市町との連携**により研究成果の社会実装を目指す多様な研究を展開
- 地域をフィールドとした研究が**市町の協力により年々増加**



■ゲノムコホート研究

およそ５年おきに充実した健診を行って対象地域の皆様の健康づくりを直接支援するとともに、健診のデータを研究に活用させていただき、新しい病気の予防方法を開発することで、皆様と子や孫の世代の健康づくりに貢献することを目的としています。

愛称	対象地域	特徴
かもけん！ かも研 KAMOKEN (R3 ～ R4)	賀茂地域 １市５町	・健康調査に、２年間で約1,300人が参加。 ・県内教育研究機関との連携により、身体・運動機能に関する研究や栄養疫学、薬学、保健・看護研究に共同で取組みを実施。 ・地域住民に特有の課題を解決する筋力トレーニング体操「かもけん！体操」を考案。 かもけん！体操
ふくけん！ ふく研 FUKUKEN (R5 ～ R6)	袋井市	・健康調査に、２年間で約2,000人が参加。 ・県外教育研究機関との連携拡大により、高齢者の口腔状態の多角的評価のための領域横断的研究などを実施。 ・地域住民に特有の課題を解決する筋力トレーニング体操「ふくけん！体操」を考案。 ふくけん！体操 膝関節編
しまけん！ しま研 SHIMAKEN (R7 ～ R8)	島田市	・健康調査の予約枠は、既に定員に達しており、注目を集めています。 ・高校生や看護学生の皆さんによる、ボランティア活動（機器の操作説明や場内誘導など）により、健康な地域まちづくりへの貢献や将来の保健医療の担い手となることを期待した取組みを実施しています。

（ロゴ：静岡文化芸術大学　和田 和美教授作成）

賀茂地域１市５町の皆さまとの「かもけん！共同研究協定」記念撮影

写真上
大場 規之袋井市長（中央）との記念撮影
（2024.2.2　於：ふくけん！健診会場）

写真左上
川勝 平太前静岡県知事（左２人目）との記念撮影
（2022.9.15　於：静岡県庁）

写真左
染谷 絹代島田市長（中央）との記念撮影
（2025.8.22　於：しまけん！健診会場）

■連携協定（自治体）

「静岡市との健康づくり分野における連携に関する協定」（2024.3.15）

静岡市と相互に連携し、保健、医療、福祉に係るそれぞれの資源や機能等の活用を図りながら、静岡市民の健康課題の解決や社会健康医学研究の推進に寄与することを目的としています。

「富士市との包括連携に関する協定」（2025.3.21）

それぞれの資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材育成を行います。

「裾野市との包括連携に関する協定」（2026.10.8）

相互の資源や機能の活用を図りながら、地域課題解決に向けた調査研究を推進し、裾野市民の生涯を通じた健康づくりに貢献します。

難波 喬司静岡市長（左）との記念撮影

小長谷 義正前富士市長（左）との記念撮影

村田 悠裾野市長（左）との記念撮影

■連携協定（病院・企業）

「掛川市・袋井市病院企業団との教育研究協力に関する協定」（2025.2.21）

中東遠総合医療センターの健診データをビッグデータサイエンスの手法で解析し、今後の健康施策に活用することを目指します。

「静岡県立病院機構との連携協力に関する協定」（2025.8.21）

「掛川市・袋井市病院企業団との連携協力に関する協定」（2026.2.6）

病院所属職員を本学の連携指導教授等として委嘱し、病院に勤務する医師が職場で働きながら学位取得・臨床研究が可能になるなど、社会健康医学に関する教育や研究の一層の連携を図ります。

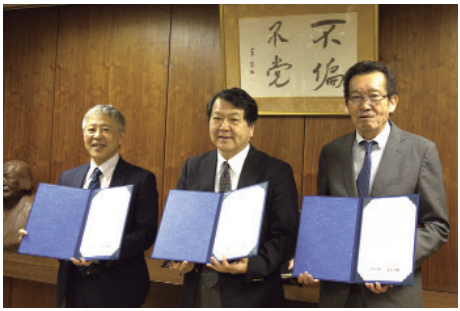
「静岡新聞社、静岡放送と健康づくり分野における連携に関する協定」（2025.1.10）

大学の研究成果を活用した情報発信や健康啓発活動を共同で行い、県民の健康増進を目指します。

掛川市・袋井市病院企業団の皆さまとの記念撮影

坂本 喜三郎静岡県立病院機構理事長(左)との記念撮影

宮地正彦企業長兼院長（左）との記念撮影



静岡新聞社・静岡放送さまとの記念撮影

■連携協定（大学）

国立大学法人弘前大学「学術研究交流に関する協定」（期間：2023.6.1 ～ 2027.3.31）

相互に所有する研究資源を両組織の研究活動全般に活用することで、相互の研究交流を促進するとともに、両組織の学術研究の一層の充実を図るため、協定を締結しました。

＜連携学術研究交流事項＞

1　コホート事業の高度化のための研究連携
2　研究成果の社会実装を推進するための基盤強化
3　URA を含む研究支援人材や若手研究者の育成と人材交流

浙江大学医学院公共衛生学院「学術交流協定」（期間：2024.10.24 ～ 2029.10.23）

本学初の国際交流協定となります。相互平等と互恵の精神に基づき、両機関の学術協力と交流を促進することを目的としています。

＜連携学術研究交流事項＞

1　講義や共同研究等を目的とした教員の交流
2　学生交流プログラム等の実施による学生の交流
3　相互に関心のある分野における共同研究・事業の協力

静岡理工科大学「学術交流に関する協定」（期間：2025.11.13 ～ 2028.3.31）

社会健康医学分野を中心とする学術交流において、広く相互協力することにより教育と研究の推進に寄与することを目的として、協定を締結しました。

＜協力事項＞

1　学生及び教職員の交流に関すること
2　学生の教育に関すること
3　学術研究及び共同研究に関すること
4　研究設備の相互利用に関すること
5　その他、この協定の目的を達成するため、両組織が必要と認める事項

弘前大学

浙江大学の皆さまとの記念撮影

静岡理工科大学の皆さまとの記念撮影

■事例紹介

数多くのセクターとの連携による研究や委員活動、講演活動を行っています。

連　携　先	連　携　内　容　（例）
県内教育研究機関	・常葉大学（静岡理学療法学科） 身体・運動機能に関する共同研究、筋力トレーニング体操「ふくけん!体操」考案。 ・静岡文化芸術大学（デザイン学部） シンボルマークなどデザインで健康づくりの社会機運を高める取組みを実施。 ・静岡県立大学（食品栄養科学部、薬学部、看護学部） 栄養疫学研究、薬学・薬効動態研究、保健・看護研究における共同研究。 ・浜松医科大学（医生理学講座） 血栓溶解抵抗性に関する血液検査、動脈効果や脳卒中との関連解明研究。 ・静岡大学（サステナビリティセンター） 静岡県高度専門人材育成プラットフォーム（SHAPE）参画。
県外教育研究機関	・京都大学（ゲノム医学センター） 静岡コホート参加者の網羅的一塩基多型分析。 ・京都大学（眼科） 高齢者に多い眼底病変、眼圧異常、網膜の形態学的評価と循環器疾患や認知機能との関連解明に関する研究。 ・新潟大学（包括歯科補綴学）・国立長寿医療研究センター（歯科） 高齢者の口腔状態について多角的に評価するための領域横断的研究。 ・経済産業研究所・京都産業大学 社会経済因子が健康指標に与える影響に関する研究。 ・お茶の水女子大学 地域住民の栄養に関する行動変容を惹起するための栄養教育学研究。
県内自治体	・静岡市がん検診精度管理協議会委員 ・静岡市国民健康保険特定健康診査等実施計画推進協議会委員 ・静岡市生涯学習センターみのり大学ほか市民講座講師 ・島田市とコホート研究に関する連携協定を締結（令和７年１月24日） ・藤枝市新産業創造戦略委員会委員 ・袋井市とコホート研究に関する連携協定を締結（令和５年３月24日） ・袋井市健康増進業務アドバイザー ・御前崎市健康づくり推進協議会アドバイザー ・牧之原市健康づくり推進協議会委員 ・賀茂１市５町とコホート研究に関する連携協定を締結（令和３年10月29日） ・東伊豆町健康づくり推進協議会構成委員 ・小山町行政アドバイザー ・吉田町シニアカレッジ講師　など
企業	・受託共同研究 ・コンサルティング ・講演、講師、座長、委員

連携方法

地域・産学官連携委員会委員長の山本 精一郎です。

私からは、本学との連携方法についてお知らせします。
自治体、団体、企業、個人など様々なセクターの皆様と繋がりを持ちたいと考えており、様々な形態を用意しております。
本学との連携について、ご相談をお待ちしております。

■連携方法

区　分	主な対象	概　　要	知　的　財　産
受託研究 受託事業	自治体・企業	企業等が、大学に研究や事業の委託（研究費支払）を行います。	契約書の定めにより決定します。
共同研究	自治体・企業	大学、企業等双方がリソース（研究員、試料等）を持ち寄り、研究を行います。	契約書の定めにより決定します。
共同研究講座	企業	企業が組織としてリソース（研究員、試料等）を大学に持ち込み、大学と共同で長期的な研究を行います。	契約書の定めにより決定します。
奨学寄附金	企業	企業からの寄附により趣旨に沿った教育研究を行います。	大学に帰属します。
寄附講座	企業	企業からの寄附により趣旨に沿った研究を行います。	大学に帰属します。
審議会委員	自治体・企業	審議会等の委員をお引き受けします。	—
講演会講師	自治体・企業	講演会等の講師をお引き受けします。	—

■ご負担いただく費用

区　分	受託研究・事業	共同研究	共同研究講座	寄附金等	寄附講座
①直接経費	必要額	必要額	必要額	—	—
②間接経費	直接経費 ×30%以上	直接経費 ×30%以上	直接経費 ×30%以上	総額 ×12%以上	総額 ×12%以上
総　額	①+②	①+②	①+②	寄附額	寄附額

静岡社会健康医学大学院大学
Shizuoka Graduate University of Public Health

新たなウェルネス事業を
お考えの企業の方へ

大学のリソースを使って、サービスをより魅力的にしませんか？

～産学連携による社会的価値の共創～

■大学リソース

・企業の健康サービスや社員健康管理について、マーケティング、行動変容、データ解析などの研究手法を用いて分析・助言します。
・リアルワールドデータ（ＲＷＤ）※を活用した、医薬品・医療機器・アプリなどの評価や社員の健康管理方法の検証を得意としています。

※日常の臨床現場等から得られる患者等のデータの総称

企業のみなさま	×	本学	＝	共創成果
例えば、 ・売上UPのヒントを掴みたい ・データを採りたい ・エビデンスが欲しい		・データの専門家 ・データ取得企画・解析 ・行動変容を促す提案		社会的価値の創造 （事業サービス）

■方法・費用

・受託共同研究、共同研究講座、寄附講座、アドバイザーなど。
・研究費＋事務経費（研究費の30％）が必要となります。
※詳しくは、下記Webサイトをご覧ください。

税制度メリット

○特別試験研究費税額控除制度
大学との共同研究及び委託研究等に要した試験研究費の額に一定の控除率（20%、25%、30%）を乗じて計算した金額を、当該事業年度の法人税額から控除できる制度です。

○法人が寄附した場合の税制上の優遇措置
法人税法上の全額損金算入を認められる寄附金(法人税法37条3項2号)となります。
法人の所得から控除され、税法上の優遇措置を受けることができます。

[問い合わせ先]
事務局教務課研究支援室
E-mail:kenkyu@s-sph.ac.jp

本学Webサイトはこちら
静岡SPH

連携方法　～事例紹介～

■寄附金　～株式会社タイカ様～ Taica

1948 年、静岡県清水市（現：静岡市清水区) にて創業（旧：鈴木商会)。シリコーンを主原料とした多機能素材「α GEL」の開発・製造・販売、介護・福祉用品「α PLA」の開発・製造・販売、曲面印刷技術「CUBIC」関連の開発・製造・販売・技術供与を行う技術開発型企業。

〈きっかけ〉

現在の代表取締役社長 鈴木大登様のご尊父であり、旧鈴木総業株式会社代表取締役社長の鈴木剛様と、本学理事長兼学長の宮地とが、静岡大学教育学部附属静岡中学校時代の先輩、後輩という御縁と、株式会社タイカ様が宮地の専門の一つである褥瘡領域の製品を開発していることもあり、本学の開学に合わせて、本学の理念に共感いただき、寄附をいただくことになりました。

〈寄附講座〉

・寄附講座名	ウエルネスみらい講座（タイカ）
・設 置 期 間	令和６年４月１日～令和９年３月 31 日（３年間）
・研究テーマ	褥瘡の実態調査やその発生機序、創傷治癒機転等に関する基礎研究と臨床への応用、医薬品、医療材料、医用工学機器などの開発、高齢者医療に関する疫学研究、また、家族への啓発・心のケアなどに貢献すること。

教員２名（特定教授及び特定助教）により、褥瘡に関する教育研究を進めております。

特定教授の橋爪 秀夫です。浜松医科大学皮膚科で臨床およびアレルギー研究を行ったのち、本学を卒業し疫学研究も行っています。タイカ様からの寄附講座を受け、令和６年４月から現職に着任しました。

特定助教の松浦 杏美です。本学博士後期課程の大学院生でもあります。褥瘡の予防と克服を目指し、日々研鑽を重ねています。得られた知見を社会に還元し、より多くの高齢者の健康の実現に貢献していきたいと考えています。

〈奨学寄附金〉

寄附期間：令和３年～令和７年
使　　途：本学の教育研究活動に使わせていただいております。

寄付金（寄附講座設置）贈呈式（2023年4月1日）
左から川勝平太知事（当時）、鈴木大登代表取締役社長、宮地良樹学長

奨学寄付金目録贈呈（2025年5月15日）
多田重和取締役執行役員（左）、宮地良樹学長（右）

橋爪 秀夫 Hideo Hashizume

併　任：磐田市立総合病院非常勤医師
学　位：博士（医学）修士（社会健康医学）
資　格：医師

【企業・自治体へのＰＲ】

○高齢者の健康増進に関する研究として、褥瘡（床ずれ）の疫学研究による発症リスク探索、薬剤アレルギー・アナフィラキシー発症ついての研究を行っています。
○研究成果を活かし、疫学エビデンスに基づいた健康リスク管理・予防プログラムの設計・開発において、協力が可能です。

■研究テーマ

高齢者の健康増進に関する疫学研究
褥瘡・大腿骨骨折および薬疹・アナフィラキシー発症などのリスク因子探索

■キーワード

皮膚科学 , 創傷治癒 , アレルギー , 薬疹 , 皮膚リンパ腫

県内委員
・静岡市指定難病審査会委員（2024.4.1-2026.3.31）
・浜松市指定難病審査会審査委員（2024.4.1-2026.3.31）
・静岡県指定難病審査会委員（2024.4.1-2024.12.31）
・日本褥瘡学会中部地方会世話人（2022.4.1-現在）

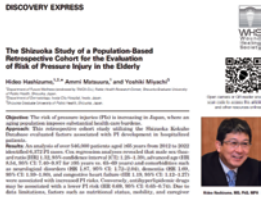
県内講演等
・国立大学法人浜松医科大学非常勤講師「皮膚科学」（2025.4.1-2026.3.31）
・東海アクシス看護専門学校看護学科講師「病態学Ⅳ」（2025.10.1-2026.3.31）
・藤枝市市民講演会「足元からはじまる健康長寿への道」（2025.6.29）
・静岡県皮膚科医会「静岡県皮膚科医会総会の秋の例会における講演」（2024.11.9）など

主な活動
・独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員
・厚生労働省難治性疾患　重症多形滲出性紅斑研究班　班員（-2023年）
・官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発研究事業 創薬戦略部（医薬品等規制科課）医薬品等規制調和・評価研究事業 研究　研究員　など

経歴
・磐田市立総合病院　副院長兼皮膚科部長（2019年-2024年）
・市立島田市民病院（現島田市立医療センター） 副院長（2011年-2019年）
・浜松医科大学医学部皮膚科学教室 准教授（2003年-2011年）
・沼津市立病院 皮膚科部長（1995年-1999年）
・国立東静病院（現静岡医療センター） 皮膚科部長（1993年-1995年）

共同研究シーズ
製薬・医療機器メーカー：薬剤の安全性や副作用のリスク要因の分析支援
介護現場や自治体との連携：高齢者の在宅ケア・施設運営における健康寿命延伸策の構築支援
共同セミナー・研修プログラムの企画：医療従事者・ケアマネジャーを対象とした講座やワークショップ

第27回日本褥瘡学会にて優秀演題賞受賞（松浦特定助教）



Advances in Wound Care 2025 掲載

山本 精一郎 Seiichiro Yamamoto

地域・産官学連携本部副本部長 / 社会健康医学研究科副研究科長
併　任：国立がん研究センター 研究支援センター生物統計部 特任研究員
学　位：博士（保健学）

【企業・自治体へのＰＲ】

○統計学、疫学、ヘルスコミュニケーションを専門とし、様々な医療技術の開発評価を行うとともに、人々の健康行動変容を促すための研究に取り組んでいます。
○疾患予防や健診受診といった健康行動をいかに普及させるか、現場での応用を視野に行動科学的研究を行っています。

■研究テーマ

・ナッジや行動経済学的手法を利用した行動変容の促し
・がん検診・特定健診受診率向上（体制も含めて）
・静岡県各市町における栄養素摂取量などの生活習慣調査 (https://rok.rokproject.jp/nr/)
・がん検診の有効性評価
・乳がん及び大腸がん患者コホート（生活習慣の予後への影響）

■キーワード

普及実装研究，臨床試験，　生物統計学，　疫学の方法論，がん，Cancer Clinical trial,　Biostatistics, Epidemiological Method

県内委員

・静岡県がん登録協議会委員（2024.10.1-2026.9.30）
・静岡市がん検診精度管理協議会（2023.8.14-2025.8.13）
・静岡県フーズ・ヘルスケア　オープンイノベーションプロジェクト戦略検討委員会委員（2023.4.1-2025.3.31）
・藤枝市新産業創造戦略委員会委員（2024.11.1-2026.10.31）
・袋井市総合計画審議会委員（2024.5-2025.8.31）
・御前崎市健康づくり推進協議会委員（2024.5.1-2026.4.30）　ほか

県内講演等

・静岡県「令和３年度ヘルスケアビジネスセミナー兼勉強会」（2023.2.24）
・SHIZUOKA Business Compass「企業の健康経営の第一歩「食と生活習慣チェック（2024.12.18）
・SBSnews6「“健康経営”ってなに？ 新聞社・テレビ局の調査結果を公開【フジヤマ6】」https://x.gd/a1hK7
・静岡県「静岡ウェルネスプロジェクトキックオフセミナー」（2025.6.13）
・静岡がんセンター「臨床研究のデザインと統計手法」（2025.11.7）　ほか

主な活動

・自治体向けがん検診受診率向上支援サイト「希望の虹プロジェクト」共同主宰 https://rokproject.jp/kenshin/message.html
・医師等20万人以上が登録する我が国の臨床研究教育のデファクトスタンダード「ＩＣＲ臨床研究入門」代表者　https://www.icrweb.jp/

経歴

・国立がん研究センター（1996-現在、保健政策研究部長などを歴任）
・米国国立がん研究所National Cancer Institute客員研究員（2003.7-2004.12）
・内閣官房医療イノベーション推進室企画官（2011.1-2013.3）
・世界経済フォーラム第四次産業革命日本センターヘルスケアデータ政策プロジェクト長（2019.3-2021.5）

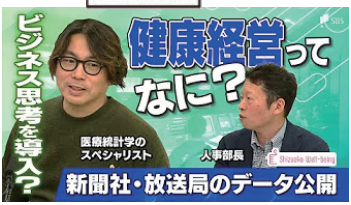
・内閣府食品安全委員会新開発食品専門調査会専門委員(2005.10-2015.9, 2016.4-現在)
・東京大学非常勤講師(2007-現在)

共同研究のシーズ　統計家として治験・臨床試験の豊富な経験を生かしたヘルスケアサービス評価
データサイエンティストとして様々なデータ解析
PFS,SIBなどをはじめとする自治体と共同した事業構築と評価
ナッジや行動経済学的方法を用いた健康行動の促しに関するノウハウ

○会社の健康経営にも生かせる「静岡県民限定！生活習慣調査」

解説動画の URL

サイト QR⇒



○ SBSnews6「“ 健康経営 ” ってなに？ 新聞社・テレビ局の調査結果を公開【フジヤマ 6】

○医師等 20 万人以上が登録する我が国の臨床研究教育のデファクトスタンダード
「ＩＣＲ臨床研究入門」代表者　https://www.icrweb.jp/

アプリの画像

田原 康玄 Yasuharu Tabara

併　任：京都大学 大学院医学研究科先端・国際医学講座 客員教授，
大阪大学 大学院医学系研究科 総合ヘルスプロモーション科学講座 招へい教授
学　位：博士（医学）

【企業・自治体へのＰＲ】
○疫学、遺伝医学、公衆衛生学を専門とし、生活習慣病や循環器疾患、フレイルなどのリスク因子解明と予防・介入に関する疫学研究に注力しています。
○社会の健康課題やニーズを分析し、貴社の事業戦略に合致した市場機会やターゲット層の特定を支援します。

■研究テーマ

・生活習慣病・循環器疾患・フレイルのリスク因子の解明と予防・介入方法に関する疫学研究，認知症のリスク因子の解明と予防対策に関する研究。
・大規模な健康データ（国民健康保険加入の静岡県民の健診､医療･介護レセプトデータなど）を駆使し､データに基づいた科学的根拠を導き出す研究を行っています。特に、遺伝医学の知見も取り入れながら、個々人のリスクに応じた予防・介入策の確立を目指しています。

■キーワード

ゲノム医学，老年医学，高血圧学，疫学

県内委員
・静岡健康・長寿学術フォーラム企画運営委員会（2021年4月-2023年3月）
・袋井市健康増進業務アドバイザー（2022年6月-2024年3月）
・牧之原市健康づくり推進協議会アドバイザー（2022年4月-2025年3月）
・静岡県血圧測定習慣化タスクフォース構成員（2022年7月-2025年3月）
・静岡県ＩＣＯＩプロジェクト・アドバイザリーボード（2022年6月-現在）
・掛川市・袋井市病院企業団中東遠総合医療センター治験審査委員会・臨床研究倫理審査委員会委員（2025.5.1-2026.4.30）

県内講演等
・静岡県健康福祉部健康局特定保健指導に関する研修会における講演（2023.8.9）
・河津町健康増進課健康づくりセミナー（住民向け講演会）（2024.1.23）
・独立行政法人国際協力機構中部センター講義「エビデンスに基づく生活習慣病対策（コホート研究）」（2024.12.4）
・公益財団法人静岡県看護協会「認定看護管理者教育課程講義サードレベル「資源管理Ⅲ」の実施」講師（2025.8.8）

主な活動
県内市町において、最先端の医学研究と住民の健康づくりを目指した静岡多目的コホート研究事業「かもけん！（賀茂地区）」「ふくけん！（袋井市）」「しまけん！（島田市）」を実施しています。コホートで収集した大規模かつ高密度の臨床情報や生体試料を活用し、新しい病気の予防方法を開発することで、子や孫の世代の健康づくりに貢献することを目的としています。

経歴
・京都大学先端・国際医学講座 客員教授（2021年4月-現在）
・大阪大学大学院医学系研究科 総合ヘルスプロモーション科学講座 招へい教授（2020年9月-現在）
・京都大学大学院医学研究科 附属ゲノム医学センター 特定教授（2020年8月-2021年3月）
・京都大学大学院医学研究科 附属ゲノム医学センター 准教授（2012年4月-2020年7月）

共同研究のシーズ　静岡多目的コホートの臨床情報や生体試料を活かした予防医学に関する研究
静岡多目的コホートを活かした製品やサービスの開発や性能評価
企業が実施する臨床研究や観察研究のコンサルティング（計画立案、データ収集、データ分析の支援）

The SHIZUOKA STUDY

静岡多目的コホート研究事業
5,000人超の大規模高密度臨床情報に基づく生活習慣病・フレイルの最先端予防医学研究

かも研 KAMOKEN　ふく研 FUKUKEN　しま研 SHIMAKEN

栗山 長門 Nagato Kuriyama

併　任：京都府立医科大学 大学院医学研究科 地域保健医療疫学，
同附属脳・血管系老化研究センター社会医学部門 客員教授，
静岡県立総合病院 特別嘱託医
学　位：博士（医学）
資　格：医師

【企業・自治体へのＰＲ】

○臨床医学と公衆衛生学の双方に精通しており、地域社会の健康増進に貢献するための実践的な研究を行っています。
○コホート調査研究を主軸に、認知機能の低下や認知症の発症リスク要因、腸内細菌叢（腸 - 脳相関）と認知特性の関係、口腔内細菌叢と全身の健康の関係など、多岐にわたるテーマで研究を進めています。

■研究テーマ

長寿・認知症・生活習慣病・骨粗鬆症の予防に関する研究、健康リスクと関連要因の研究、コホート調査研究

■キーワード

難病疫学，疾病登録レジストリー，感染症疫学，コホート研究，認知症，骨粗鬆症，公衆衛生，サルコペニア，予防疫学，消化管細菌叢，環境疫学

県内講演等　静岡県立大学・病院・地域薬局連携による薬物療法研修会「第169回薬物療法研修会」講師（2023.7.26）

主な活動

・厚生労働省研究班自己免疫性脳炎全国疫学調査グループ委員（2016年-現在）
・厚生労働省難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）「神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証」班員（2016年-現在）
・厚生労働省研究班重症筋無力症（MG）・LEMS全国調査推進委員会委員（2016年-現在）
・厚生労働省研究班視神経脊髄炎（NMO）疫学調査グループ委員（2013年-現在）
・日本難病疫学研究会・研究班運営委員（2011年-現在）
・厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業　「特発性正常圧水頭症の診療ガイドライン作成に関する研究」班委員（2013年-2021年）
・日本脳卒中学会評議員（現在）
・日本自律神経学会評議員・診療ガイドライン委員（現在）
・日本疫学会評議員（現在）
・日本公衆衛生学会代議員（現在）
・日本脳血管・認知症学会評議員（現在）
・日本正常圧水頭症学会理事（現在）
・東海公衆衛生学会雑誌　編集委員長（現在）

経　　歴

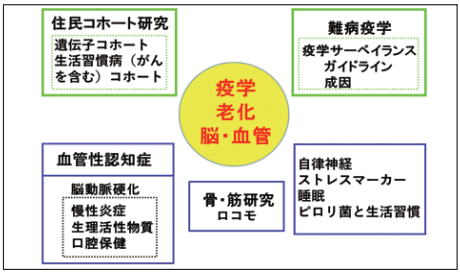
・静岡県立総合病院脳神経内科特別嘱託医（2021年3月-現在）
・京都府立医科大学大学院医学研究科 医学研究科 地域保健医療疫学＆公衆保健科学 および 同附属脳・血管系老化研究センター 社会医学部門, 客員教授（2021年3月-現在）
・京都府立医科大学, 地域保健医療疫学＆公衆保健科学 および 同附属脳・血管系老化研究センター 社会医学部門 客員教授, 准教授（2012年4月-2021年3月）
・ハーバード大学医学部公衆衛生大学院MPH留学（2013年-2014年）
・京都第二赤十字病院 神経内科（2004年4月）
・国立病院機構滋賀病院 医長（2000年12月）

・カリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部留学（1997年9月-2000年）

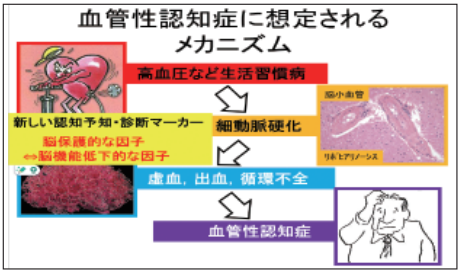
専門医などの資格
・2003年　日本内科学会認定内科医
・2003年　日本神経学会専門医
・2004年　日本脳卒中学会専門医
・2009年　日本神経学会指導医
・2015年　日本公衆衛生学会専門家
・2015年　日本骨粗鬆症学会専門
・2017年　日本社会医学専門医・指導医
・2017年　日本産業医
・2019年　日本疫学会認定疫学専門家・上級疫学専門家

共同研究のシーズ

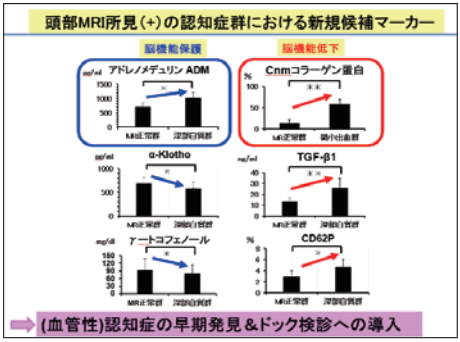
私は、今までに様々な疫学研究を行ってきました。
特に、脳卒中・動脈硬化の疫学研究、認知症の疫学研究、難病の疫学研究などについて焦点を当ててきました。
地域住民を対象にした前向きコホート調査研究を実施し、
①脳卒中や認知症を含む老年疾病
②がんを含めた生活習慣病、ゲノム医学・遺伝多型
③感染症疫学
を対象に、地域に根ざすリアルな疫学研究を推進して参りました。
今後、公衆衛生・健康医学に基づく研究・調査の充実や地域特性に根ざした医学研究に努め、さらに発展させていく所存です。
その中から、企業・自治体の皆様と連携し、豊かな人間性をもつ公衆衛生や臨床を担う人材や疫学研究が出来る人材の教育を行っていきたいと考えます。



研究領域



血管性認知症の研究概要



竹内 正人 Masato Takeuchi

学　位：博士（医学）
資　格：医師

【企業・自治体へのＰＲ】
○データに基づいたエビデンスを生成し、社会実装に繋げることで、国民全体の健康と福祉の向上に貢献したいと考えております。
○特に、高齢化が進む日本において、限りある医療資源をいかに効率的かつ公平に配分するかという課題に対し、政策提言につながる解決策を探求しています。

■研究テーマ

治療・健診などの、短期的・長期的な有効性評価
（過去の研究例）
・健常児における熱性けいれん重積と遠隔期の神経学的後遺症
・Deprescribing（医療判断による減処方）調整加算制度の実態と効果の検証
・特定健診の有効性：Target Trial アプローチを用いた検証
・医療用ビッグデータを用いた薬剤有害事象検出：機械学習によるデータ駆動型アプローチ など

■キーワード

Public Health, Pharmacoepidemiology, Clinical Epidemiology, リアルワールドデータ , 大規模医療データベース

県内委員　静岡市アドバイザー検討会議への出席（2024.4.1-2025.3.31）

県内講演等　一般社団法人富士宮市医師会「第526回富士宮市医師会学術講演会」講師（2025.3.13）

主な活動
・小児喘息患者における喘息発作と大気汚染物質濃度・気象条件・花粉との関連-静岡県国保データベース研究-（第35回日本疫学会学術総会 2025）
・肥満指標としてのBody Roundness Indexに関する探索的研究：静岡国保DBを用いた検討（第35回日本疫学会学術総会 2025）
・年代毎の食物アレルギー関連診断の動向（2011-2020年）：診療報酬データベースを活用した記述疫学研究（第28回日本病態栄養学会学術集会 2025）
・孤立性拡張期高血圧と心血管イベントとの関連:特定健診データと g-公式を用いた推定（第83回日本公衆衛生学会総会 2024）

経歴
・京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻薬剤疫学分野准教授（2016年11月-2023年3月）
・京都大学薬剤疫学講師（2016年1月-2016年10月）

共同研究のシーズ　ヘルスケア・ウェルネス事業において、経験則に頼らない科学的根拠（エビデンス）に基づいた意思決定を可能にします。
データ人材育成：社内データ分析チームに対し、医療・健康データの分析手法を指導、共同研究を通じて人材育成を支援します。

（研究概要）

大規模医療データベースを使った疫学研究

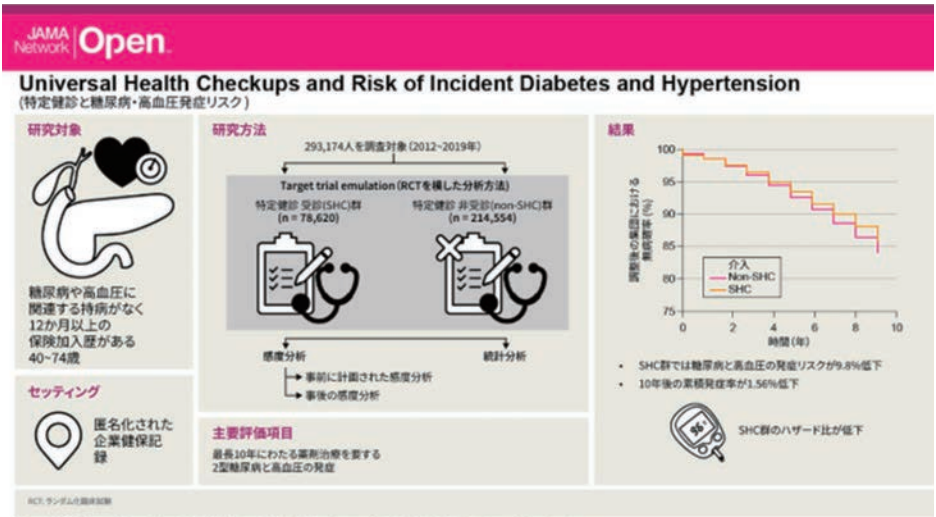
大規模医療DBを用いた臨床疫学・薬剤疫学研究を行っています

- ✔静岡国保データベース（SKDB）を主に使用
- ✔研究紹介（一部）
  - ある疾患の患者数は、全国で何人くらいか？
  - 新しい薬剤は、従来のものと比べて患者予後を改善するか？
  - 新しいガイドラインの指針は、患者予後をどの程度改善するか？

（研究事例）

「熱性けいれん重積と遠隔期の神経学的後遺症 ―日本のレセプトデータを用いた最大規模の研究―」（2025年1月27日国際学術誌「Annals of Neurology」掲載）

過去最大規模となる 38,465 人の熱性けいれん患者のレセプトデータを用い、けいれんが重積した場合としなかった場合で、その後のてんかんや発達障害の発症リスクが上昇するかを他の研究者とともに検証しました。その結果、てんかんの発症リスクは高まる一方、発達障害のリスクに有意な差はないことが明らかになりました。



Takeuchi M, Shinozaki T, and Kawakami K. Universal Health Checkups and Risk of Incident Diabetes and Hypertension. *JAMA Netw Open*. 2024;7(12):e2451813. doi:10.1001/jamanetworkopen.2024.51813

木下 和生 Kazuo Kinoshita

併　任：京都大学 iPS 細胞研究所 井上研究室 研究員（非常勤）
学　位：博士（医学）
資　格：医師

【企業・自治体へのＰＲ】
○アレルギーなどの免疫疾患の新規治療薬の発見へ導く、AID（activation induced cytidine diaminase）酵素活性測定法を開発しました。
○赤身肉ががんや高血圧などの疾患を引き起こす原因を将来解明し、10 年先の食肉産業を見据えた予防法を提案します。

■研究テーマ

1．抗体の多様性を生み出す酵素 AID の研究。アレルギーの原因となる IgE 抗体産生やがんの原因となる遺伝子変異に AID は関与しています。
2．赤身肉に含まれる糖鎖抗原 Neu5Gc（ニューファイブジーシー）が発がんや動脈硬化の契機となるとする仮説を、血中の抗体量と疾患との関連から証明します。静岡コホート研究を活用します。
3．内在性レトロウイルスの活性化と老化に伴う機能低下との関連を静岡コホート研究を活用し、調べます。

■キーワード

発がん , 抗体産生機構 , クラススイッチ，Neu5Gc，内在性レトロウイルス

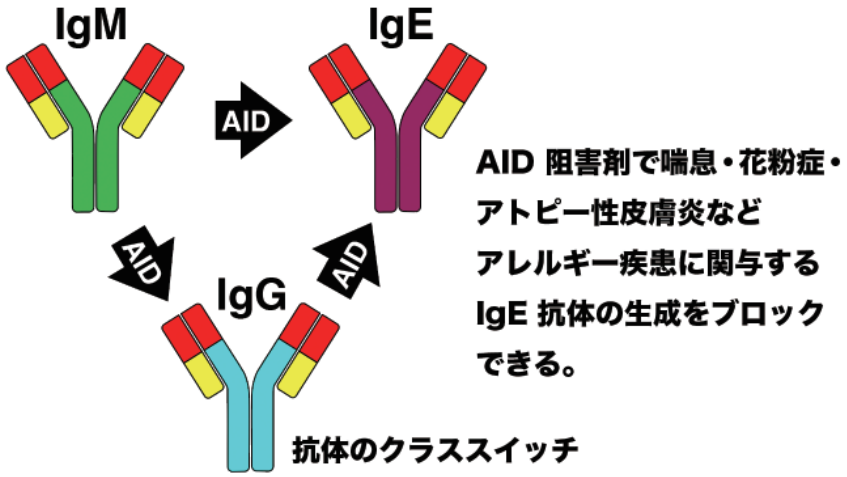
主な活動
・静岡県立大学客員教授（2023.4.1-2026.3.31）
・独立行政法人静岡県立病院機構客員研究員（2024.4.1-2025.3.31）
・同志社大学生命医科学部嘱託講師「人体の構造と機能Ⅲ」（2025.9.21-2026.3.31）
・京都大学iPS細胞研究所井上研究室 研究員（非常勤）（2024年2月-現在）

経歴
・静岡県立総合病院遺伝診療科 医長（2020年4月-2021年3月）
・滋賀県立総合病院研究所 専門研究員（2006年1月-2020年3月）
・京都大学大学院医学研究科 特任准教授（2003年4月-2005年12月）

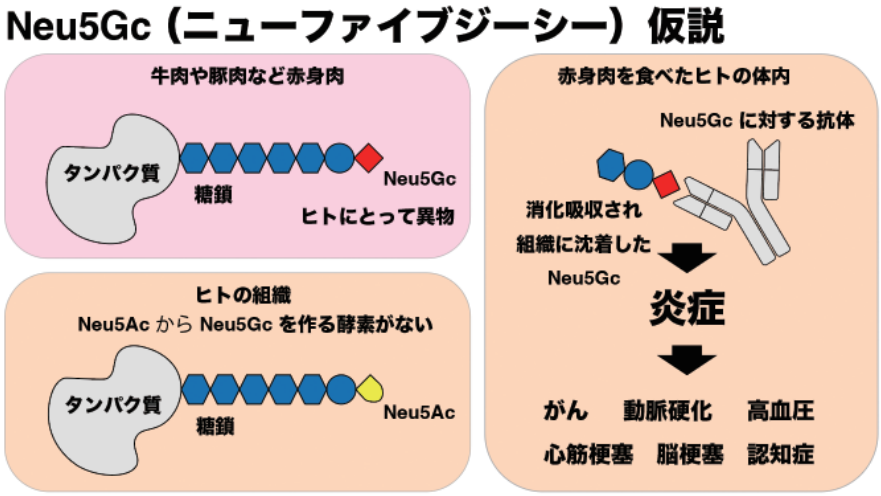
共同研究のシーズ
抗体の多様性、IgE抗体の産生に必須のAID酵素の阻害剤の同定に使用できる薬剤スクリーニング法を開発しました。AIDはがんの原因となる遺伝子変異の生成にも関与しています。AID阻害剤はがんやアレルギー疾患の予防や治療に役立ちます。

赤身肉の成分 Neu5Gc が発がんや動脈硬化に関与していることは動物実験では示されているものの、ヒトでの検証は不十分です。静岡コホート研究を利用してこれを証明し、がんや動脈硬化のない世界を目指します。
（提案例）
・製薬・バイオ企業：新薬開発研究
・食肉関連企業：安全な赤身肉の提供に向けた基礎研究

1．AID 阻害剤はアレルギーの治療薬となります



2．赤身肉に含まれる Neu5Gc 抗原に対する対策を提案



高山 智子 Tomoko Takayama

学　位：博士（保健学）

【企業・自治体へのＰＲ】

〇ヘルスコミュニケーション、健康政策学を専門としています。特に、医療の質向上、組織コミュニケーション、そして、がん対策に関する研究に重点を置いています。

〇社会貢献として、がん情報の提供、がん患者の両立支援、相談支援体制の構築などに力を入れています。

■研究テーマ

医療の質と政策：医療の質や持続可能な医療関連サービスについて研究しています。患者や当事者の経験に焦点を当てることで、より実践的な知見を導き出しています。

がん対策：がん対策推進基本計画のロジックモデル構築や、希少がん診療・相談支援ネットワークの構築、そして科学的根拠に基づいたがん情報の提供体制整備に関する研究に携わっています。

■キーワード

Health communication, 組織コミュニケーション , 健康管理・マネジメント , Patient-Doctor Relationship, Quality of healthcare, Quality of Life

県内講演等　静岡医療センター附属静岡看護学校卒業記念講演（2025.3.4）

主な活動

・国内最大のがん情報ウェブサイト「ganjoho.jp」の企画・運営
・公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター運営委員会委員長（2023.4-）
・東京都「東京都がん対策推進協議会」委員（2024.7.31-2026.3.31）
・国立大学法人大阪大学「環境健康リスク論」講義（2023.4.1-2024.3.31）
・東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻「医療コミュニケーション学演習」講師（2023.5.19-2026.3.31）
・公益財団法人正力厚生会「がん医療フォーラム2023」講演会講師（2023.11.26）
・国立研究開発法人国立がん研究センター 客員研究員（がんの情報提供及び相談支援に関する研究一般）（2025.4.1-2026.3.31）
・一般社団法人欧州製薬団体連合会 審査員（2025.8.25-2025.9.12）
・国立研究開発法人日本医療研究開発機構 研修講師（2025.9.15） など

経歴

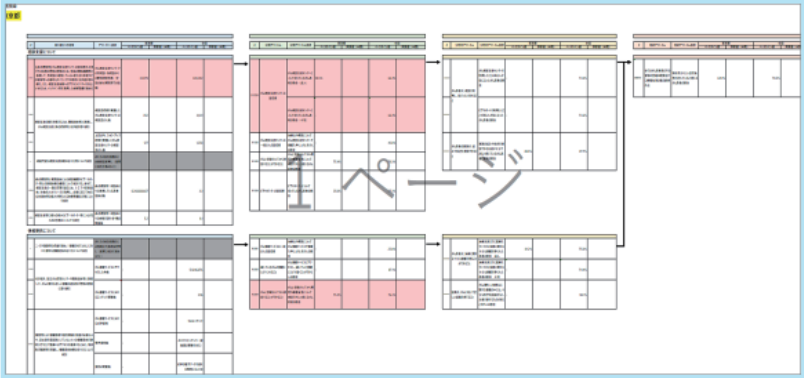
・国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所　部長 （2022年4月-2023年3月）
・国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター　部長 （2015年4月-2022年3月）
・独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター 部長 （2013年4月-2015年3月）
・国立がんセンター，がん対策情報センターがん情報・統計部・診療実態調査室 室長（2006年4月-2012年3月）
・岡山大学医学部保健学科　助教授（2004年4月-2006年3月）

共同研究のシーズ

- ヘルスケア・医療情報サービス企業向け：がん相談や健康情報プラットフォームの品質向上支援
- 医療機関・病院ネットワーク向け：相談支援センターや患者サポート体制の構築・教育設計
- 自治体向け：住民向け相談施策、がん予防キャンペーンや相談員体制整備への政策支援

企業・医療機関・自治体などの皆さまの取組みを支援させていただければと思います。お声掛けをお待ちしております！

現場の声を反映させた「施策評価指標」の開発や評価、科学的根拠に基づく施策づくりの提案・支援



国立がん研究センター「がん情報サービス」の多様な媒体の情報づくり等の経験を活かして、施策を適切に地域住民に届けるプラットフォーム構築に対する支援

堀内 泰江 Yasue Horiuchi

学　位：博士（医学）

【企業・自治体へのＰＲ】
〇ゲノム医学、精神神経科学、遺伝カウンセリングを専門としています。特に、遺伝子解析を基盤とした研究に力を入れています。
〇遺伝カウンセラーの育成など社会に還元する活動も積極的に行っています。

■研究テーマ

ゲノム医療の推進：がんゲノム医療や遺伝性疾患など、ゲノム情報を活用した個々の患者に合わせた医療（ゲノム医療）の普及を目指しています。ゲノム解析技術を基盤としたプロジェクトにも関わっています。
遺伝カウンセリングの質向上：遺伝子情報を知ることで生じる患者や家族の悩みや不安を軽減するための専門的なカウンセリング、「遺伝カウンセリング」の質の向上、倫理的課題に関する研究
精神疾患の病態解明：統合失調症やうつ病など、精神疾患の発症メカニズムを分子レベルで解明する研究を行っています。

■キーワード

遺伝疫学 , 遺伝医学 , 予防医療 , 遺伝カウンセリング , 多因子遺伝 , 精神疾患 , 神経科学 , 統合失調症 , 22q11.2 欠失症候群 , 人工多能性幹 (iPS) 細胞、ELSI

県内委員
・静岡県立総合病院遺伝研究部遺伝カウンセラー（2025.4.1-2026.3.31）
・静岡県立静岡がんセンター特別職非常勤（2025.4.1-2026.3.31）
・静岡県がん診療連携協議会がんゲノム医療部会など

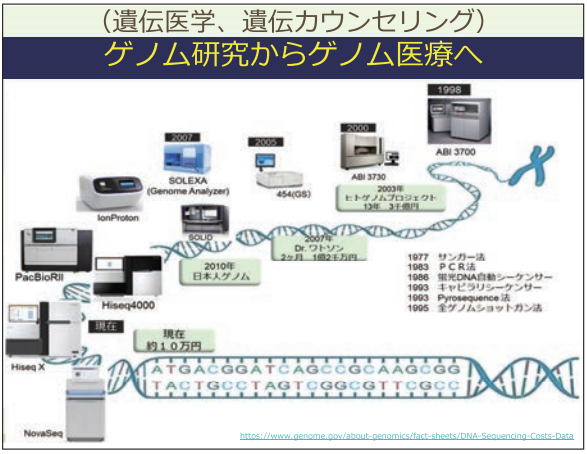
県内講演等
・静岡県立大学短期大学部 令和５年度第16回HPSシンポジウム・研究大会（2024.2.23）
・生涯健康サイエンスフェス運営委員会 シンポジスト「シン・時代を美しく安全に生きる」シン・時代における遺伝カウンセリング（2023.11.18） など

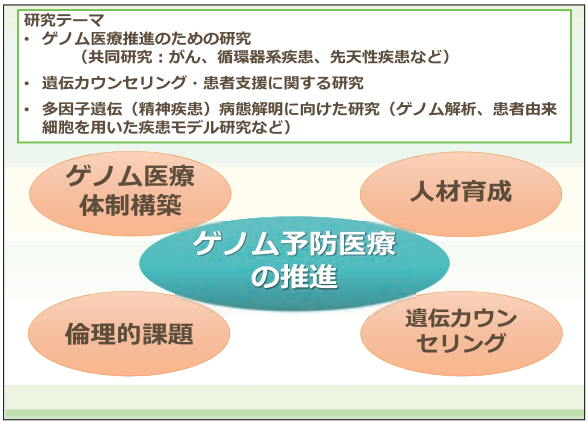
主な活動
・国立大学法人山梨大学医学部附属病院 非常勤職員
・国立大学法人山梨大学 非常勤講師
・公益財団法人東京都医学総合研究所 客員研究員

経歴
・公益財団法人東京都医学総合研究所 客員研究員（2023年4月-現在）
・静岡県立総合病院遺伝診療科（2023年4月-現在）
・山梨大学遺伝子疾患診療センター 非常勤（2021年4月-現在）
・都立松沢病院精神科遺伝カウンセリング外来非常勤（2017年4月-現在）
・静岡県立静岡がんセンターゲノム医療推進部 非常勤（2014年4月-現在）
・公益財団法人東京都医学総合研究所精神行動医学研究分野 主席研究員（2014年1月-2023年3月）
・The Johns Hopkins University School of Medicine, Department of Psychiatry and Behavioral Sciences, Research Fellow （2010年12月-2014年1月）

共同研究のシーズ　企業や医療現場が、ゲノム情報を安全・信頼性高く取り扱うための知見と体制構築に支援、協力が可能です。
特に法規制・倫理要件への対応が求められるサービス設計やCSR評価、ガバナンス整備などにおいて、協働パートナーとしてお考え下さい。

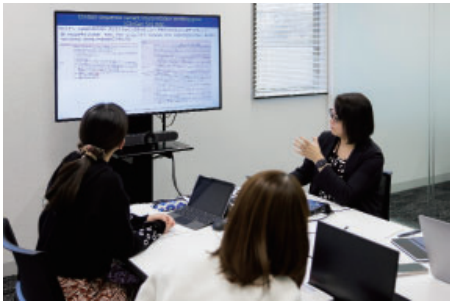
（研究概要）





（遺伝カウンセラーの御紹介）

○遺伝カウンセラーは、遺伝医学の専門知識を持ち、患者や家族に遺伝に関する情報を提供し、心理的・社会的なサポートを行う専門職です。
○近年、遺伝医療の進展により、がん・遺伝性疾患・生殖医療などの分野で遺伝カウンセリングの雰要が高まっています。
○本学では、2024年に静岡県で初めて遺伝カウンセラー養成コースを開設し、遺伝カウンセラーとして必要な知識・技術・倫理観を身につけ、社会に貢献できる専門家を育成しています。



古川 茂人 Shigeto Furukawa

併　任：静岡県立総合病院　上席研究員
NTT コミュニケーション科学基礎研究所 客員研究員
学　位：Ph. D.（実験心理学）

【企業・自治体へのＰＲ】
○「聞こえ」の基本的な仕組みの理解と、その知見に基づいた聴覚機能評価を行っています。
○難聴への介入・療育効果のエビデンス取得などに貢献できます。
○音や「聞こえ」一般にまつわるご相談もうかがいます。

■研究テーマ

・聴覚を中心とした心理物理学・神経生理学の研究を行っています。特に、脳が複雑な音環境を把握するための仕組みや手がかり、生理機能の計測・評価・モデリング、「聞こえ」の困難のメカニズムと評価などがテーマです。
・近年は臨床機関と連携し、人工内耳装用による脳の機能発達に関して臨床・療育・支援への貢献も見据えた研究にも取り組んでいます。

■キーワード

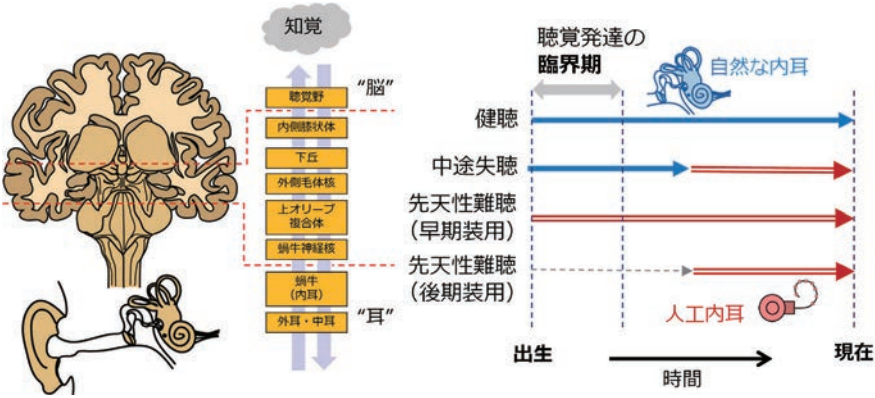
聴覚 , 聞こえ , 神経生理学 , 心理物理学 , 聴覚情景分析 , 空間知覚 , 注意 , 人工内耳 , 難聴

県内講演等　第17 回 静岡県乳幼児難聴研究会講演会「耳と“ことば認知”のはざま」（2022年8月）

主な活動
・日本音響学会　理事（2015年-2021年）、各種委員
・科学技術振興機構（JST） 戦略的創造研究推進事業さきがけ 生体多感覚システム 領域アドバイザー （2021年6月-現在）
・感覚研究コンソーシアム　アカデミア特別会員（2019年-現在）
・Trends in Hearing Editorial Board Member （2014年-現在）

経歴
・NTT コミュニケーション科学基礎研究所　人間情報研究部　研究員～部長（2001年4月-2023年3月）
・静岡県立総合病院きこえとことばのセンター客員研究員（2021年12月-現在）
・東京女子大学（2010年-2011年）、京都市立芸術大学（2016年）、東京大学（2018年, 2022年）、九州大学（2020年-現在）、等の非常勤講師
・豊橋技術科学大学 メディア科学リサーチセンター 客員准教授 （2008年-2009年）
・ミシガン大学クレスギ聴覚研究所ポスドク（1996年10月-2001年3月）

共同研究のシーズ　例えば、聴覚メカニズムの知見に基づいて、音や「聞こえ」に関わる様々な特性を評価する方法の提案や開発などの協力・支援が可能です。



- **「聞こえ」**を決めるのは**耳**だけではありません
- **頭（脳）**を構成する様々な機構が適切に働くことが必須です
- その機能は出生からの経験によっても変化します

聴覚機構の理解にもとづいて、**聴覚能力やその発達、難聴介入効果の評価**を行おうとしています

（実験装置の例）空間知覚評価用スピーカーアレイ

溝田 友里 Yuri Mizota

学　位：博士（保健学）

【企業・自治体へのＰＲ】

○厚生労働省健康・生活衛生局参与、同医政局参与を兼務し、アカデミアと行政の両方の立場から健康づくり施策に直結した研究と社会実装を行っています。

○ナッジ等の行動科学、普及啓発、周知広報に関する研修や、食生活改善等の一般向け講演を積極的にお引き受けしています。

■研究テーマ

・行動科学を活用した行動変容に関する研究
・行動変容につなげるための周知広報・普及啓発方法の開発
・行政等によるリスクコミュニケーション・ヘルスコミュニケーション

■キーワード

行動科学、行動経済学、健康社会学、健康教育学、疫学、ナッジ、健康無関心層、リスクコミュニケーション、ヘルスコミュニケーション、普及実装研究、生活習慣病、がん検診、特定健診、女性の健康、プレコンセプションケア

県内委員

・東伊豆町役場健康づくり推進協議会構成委員（2023.7.1-現在）
・全国健康保険協会静岡支部評議会における健康づくり事業推進部会委員 （2023.10.1-現在）
・富士市健康づくり推進協議会委員（2024.7.1-現在）
・静岡市国民健康保険特定健康診査等実施計画推進協議会　委員 （2023.8.14-現在）
・袋井市総合健康センター運営理事会委員（2025.7.8-現在）
・静岡県国民健康保険運営協議会委員（公益代表）　（2025.2.16-現在）
ほか

県内講演等
（2024年度のみ）

○健康づくりに携わる方向け
・藤枝市保健委員研修会　講演「今すぐ活用できる健康づくりの秘訣」（2024.5）
・掛川市保健委員総会　特別講演「保健委員活動を元気に楽しく有意義に」（2024.6）
・静岡県食推協事務局担当者情報交換会　講演「食推ヒアリングの経過報告」（2024.7）
・賀茂地域糖尿病等重症化予防対策事業　指導者研修会（全２回）講演「ナッジや行動科学を活用した住民への伝え方」（2024.11-12）
・静岡県健康福祉部福祉・介護施設職員向け感染症対策研修（管理者向け）「感染症に関する平時からのリスクコミュニケーション」（2024.9）
・静岡県西部保健所令和６年度保育所等給食関係者研修会「伝わるお知らせの作り方」（2025.1）
・静岡県保健所栄養士協議会研修会　講演「地区組織の育成・支援について」（2025.3）　ほか

○一般の方向け
・藤枝市岡部支部保健講座講「今すぐ活用できる健康づくりの秘訣―からだにいいことといっぱい！―」（2024.8）
・静岡市介護予防講演会「おいしく・楽しく 運動効果を高めよう」（2024.11）
・しずおか健康づくりサポーター＆県民　連携・協働のつどい　講演「元気に歩き続けるために　効率的に筋肉をつける食事」（2024.12）
・南伊豆町健康講座「若々しさの秘訣講座～食事で骨ケア～」（2025.1.29）
ほか

主な活動

・がん検診受診率向上「希望の虹プロジェクト」運営（https://rokproject.jp/kenshin/）
・NHK「あしたが変わるトリセツショー」がん撲滅キャンペーン企画・出演
（https://media.rokproject.jp/torisetsu2024/）
・静岡県「野菜マシマシプロジェクト」、「静岡やさかなプロジェクト」支援

メディア掲載・出演（2024年度のみ）

【新聞】
・HPVワクチンキャンペーンに関する報道（2024.7）
　朝日新聞（全国）、共同通信（全国）、３５地方紙
・HPVワクチンセミナーに関する報道（2024.9、2025.2）静岡新聞　ほか

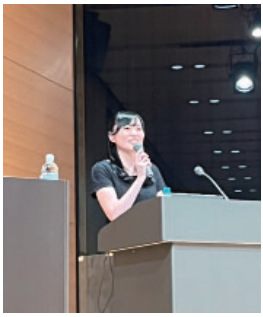
【テレビ】
〇HPVワクチンキャンペーン、セミナーに関する報道（2024.7-2025.2）
・全国放送６回（ＴＢＳテレビ、日本テレビ、NHK総合４回）
・地方局７回（NHK奈良、ＳＢＳ２回、テレビ静岡、NHK静岡３回）
〇科学情報番組
・NHK総合　どーも、NHK「がん検診に行きたくなる！？　受診推進プロジェクト」（2024.7）
・NHK総合　あしたが変わるトリセツショー「高血圧のトリセツ」（2024.10）
・NHK総合　あしたが変わるトリセツショー「がん検診のトリセツ」（2024.10）
・NHK総合　朝イチ！「大腸がん検診」（2024.10）
・NHK総合　あしたが変わるトリセツショー「声と喉のアンチエイジング」（2024.11）

経　　歴

・国立がん研究センター　室長（2013.6-2019.9）
・厚生労働省　健康局　課長補佐（2019.10-2022.3）
・厚生労働省　健康・生活衛生局　参与（2023.4-現在）
・厚生労働省　医政局　参与（2024.4-現在）
・筑波大学　非常勤講師（2025.4-現在）

NHKと全国自治体との協働による
「がん撲滅キャンペーン2024」

ヘルス＆コミュニティ（H&C）議員連盟会合
（2025.4.22）



「がん検診を受けよう！」奈良県民会議　街頭キャンペーンと講演（2024.10.10）

菅原 照 Akira Sugawara

併　任：静岡県立総合病院顧問、京都大学腎臓内科臨床教授、
　　静岡県立大学薬学部客員教授
学　位：博士（医学）
資　格：医師

【企業・自治体へのＰＲ】

○静岡県立総合病院の顧問医師として病診連携を推進し、患者サポートセンター長として患者さんにわかりやすい広報活動を展開しています。
○静岡県立総合病院と連携して臨床研究を推進しています。
○臨床研究倫理委員会委員長（病院）委員（大学）として倫理的に適切な臨床研究を推進します。また参官学連携委員会委員として研究を進めて行きます。
○広く内科の専門医としての知識を生かして、臨床の現場に実装する研究を企画します。生活習慣病の早期発見、早期診断、そして早期の治療介入が、健康寿命の延伸にどのように貢献するかが研究テーマです。

■研究テーマ

健康長寿、生活習慣病（高血圧、糖尿病、脂質異常症など）を対象にいかにして県民の健康長寿を推進していくかを研究しています。

■キーワード

内科学、生活習慣病、高血圧、糖尿病、脂質異常症、内分泌代謝学、基礎医学、臨床医学、進化医学、先制医学、全人的医学

県内委員　小山町行政アドバイザー（2025.4.1-2026.3.31）

県内講演等
・静岡県立大学非常勤講師　講義「臨床医学総論」、薬学部講義「疾患学2」「薬物療法学Ⅱ」
・「静岡県県民の日」講演会・「富士山の日」講演会の企画・講演
・病院・大学院大学の広報担当として「オープンホスピタル」を開催し、静岡新聞に「健康長寿の羅針盤」の掲載を企画など

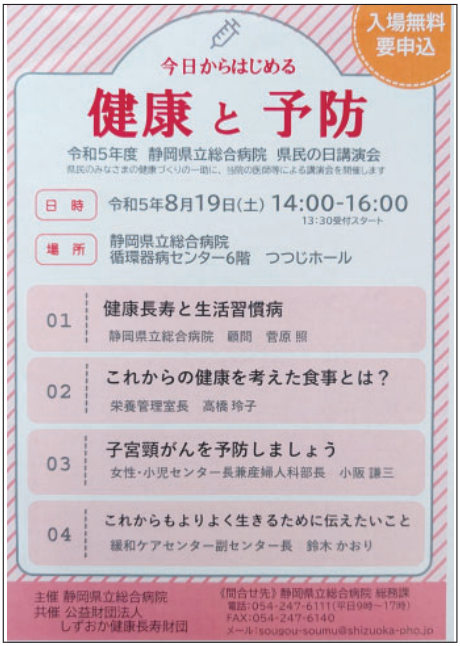
主な活動　静岡県立総合病院の顧問医師（腎臓内科）として、大学院大学と連携して臨床研究を展開し成果を論文化しています。

経歴
・静岡県立総合病院顧問（2021年4月-現在）
・静岡県立総合病院腎臓内科部長・ 副院長（2020年4月-2021年3月）
・大阪赤十字病院腎臓内科 医長（2010年11月-2020年3月）
・独立行政法人京都医療センター腎臓内科 医長（2004年4月-2010年10月）
・京都大学医学部附属病院第2内科 講師（2001年4月-2001年9月）
・静岡県立総合病院内分泌代謝内科 医長（1989年10月-1993年3月）

共同研究のシーズ　静岡県立総合病院と連携して臨床研究を推進し、広く内科系の専門医（特に生活習慣病）として、大学院大学で静岡国保データベース（SKDB）などを用いた研究を展開し、成果を論文化して臨床現場に実装し、県民の健康長寿推進に貢献できると思います。

SKDBを用いた研究課題
・静岡県国民健康保険データベース（SKDB）による生活習慣病および慢性腎臓病に関するハイリスク患者の特性を明らかにするための解析研究
・KDBを用いた高齢者の急性期脳梗塞に対する機械的血栓回収術後の予後の検討
・経口抗菌薬の処方状況と薬剤耐性菌感染症などの有害事象に関するSKDB研究
・静岡県における尿蛋白、eGFRの脳血管疾患及び心血管疾患、死亡との関連

・健診項目からの維持透析導入の予測モデル開発
・腎機能分類と医療費の関連性に関する研究
・脂質異常症治療における因果フォレストモデルを用いた高ベネフィットアプローチの有用性評価
・帯状疱疹治療薬におけるアシクロビル脳症発生の因果リスク推定
・脂質異常症患者における医療機関受診の頻度が脳血管イベント、心イベントおよび死亡率に与える影響
・フルオロキノロン系抗菌薬によるくも膜舌出欠の因果リスクの推定
・急性B型大動脈解離に対する治療成績のレセプトデータによる把握
・生活習慣病患者における初回薬物治療のする伊賀心イベント、脳血管イベント、死亡率およびコストに与える影響
・バレット食道のリスク因子の確認



健康長寿や生活習慣病の講演も数多く行っていますので、お声掛けください。

小島原 典子 Noriko Kojimahara

学　位：公衆衛生学修士（健康教育、臨床疫学）、博士（医学）
資　格：医師・認定産業医・労働衛生コンサルタント（産業衛生）

【企業・自治体へのＰＲ】
私は、公衆衛生学、産業医学が専門で、疫学研究、産業医の経験が豊富です。疾病の発生要因や予防法を含めた、健康経営や社員の健康増進をテーマにしたセミナーの開催、コンサルティングなど、さまざまな形での連携を提案可能です。価値観のスマホアプリの出資者募集中です。

■研究テーマ

・臨床疫学：Mindsの普及推進部会員でもあり、システマティックレビューの方法論の研究のほか、診療ガイドラインの作成支援も行っています。患者・市民の協働意思決定支援ツールとしてスマホアプリを開発中で、価値観の測定・評価に関心のあるステークホルダーとの共同研究を募集中です。
・環境疫学：総務省生体電磁環境研究に関わり、携帯電話（高周波）と脳腫瘍の関連、中間周波の健康影響について疫学研究を行っています。昨年度からは国際共同研究として電波のリスクコミュニケーションを推進しています。
・産業医学、医学教育学領域の研究も行っています。

■キーワード

臨床疫学（診療ガイドライン）、環境疫学（電波のリスクコミュニケーション）、産業医学（働き方改革）、公衆衛生学、予防医学

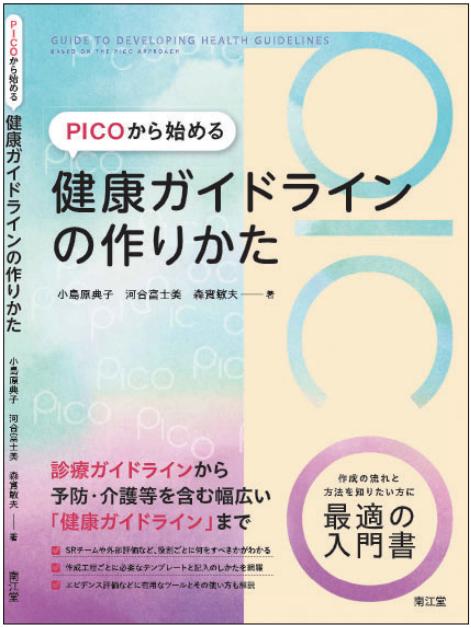
県内委員　現在はないので、ご依頼お待ちしています。

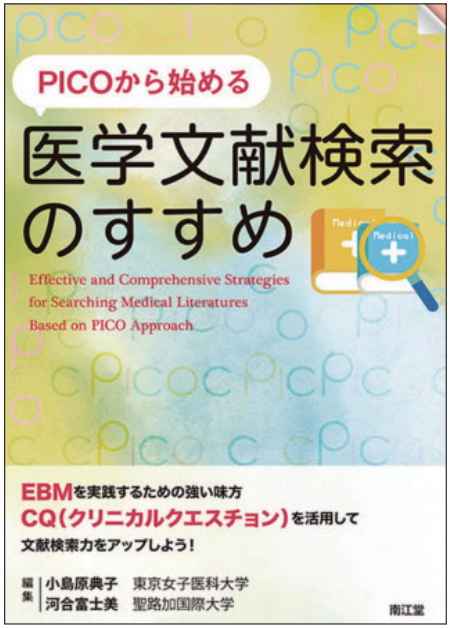
県内講演等
・システマティックレビューセミナー主催（2021-23年）
・診療ガイドラインのための推奨作成セミナー主催（2024年）
・産業医研修会、疫学セミナー等主催、講演多数。

主な活動
・労災保険情報センター理事（2025年6月-現在）
・国立研究開発法人情報通信研究機構「電波ばく露レベルモニタリングに関するリスクコミュニケーション委員会」委員（2021年7月-現在）
・日本医師会医師の働き方検討委員会（2021年3月-現在）
・独立行政法人労働者健康安全機構東京産業保健総支援センター相談員 （2018年4月-現在）

経歴
・WHO International Agency for Research on Cancerに senior visiting scholarとして電磁界研究のため留学後、静岡県立総合病院リサーチサポートセンター上席研究員として2020年から静岡に着任。
・ハワイ大学、ハーバード大学への公衆衛生学修士留学を経て、東京女子医科大学衛生学公衆衛生学第二（公衆衛生学分野） に転向。2010年からは准教授として医学教育・公衆衛生学研究に従事。
（公衆衛生学専門家・上級疫学専門家・社会医学系専門医・指導医）
・東京女子医科大学消化器病センター内科（1988年-1998年）
（総合内科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・肝臓病専門医）
・東京女子医科大学卒業（1988年）

共同研究のシーズ　診療ガイドライン・システマティックレビュー：ヘルスケア関連企業や医療機器メーカーの製品開発・評価、啓発活動に貢献できます。
産業保健：産業医として労働者の健康問題や働き方の改善の経験が豊富で、従業員の健康を重視する企業に対して、産業医として衛生委員会の活性化や健康相談、セミナーの講師として協力できます。
リスクコミュニケーション：電磁界の健康影響など、科学的な知見に基づいたリスクコミュニケーションの専門家でもあり、製品やサービスのリスク評価、消費者との対話方法についてアドバイスを行います。





・2025年12月発刊予定の「健康ガイドラインの作りかた」ほか、診療ガイドラインに関する著書多数。この知見を政策評価や、コミュニケーション評価に応用するプロジェクトを進めています。
・特に、専門家と市民の協働意思決定支援のための価値観測定アプリ（特許申請中）の共同開発を希望される企業・団体の皆さんからのご連絡をお待ちしています。

【連絡先】：疫学事務局　疫学事務局　054-295-5408（直通）
産業医のご依頼や産業保健については、epi@s-sph.ac.jp まで

森 潔 Kiyoshi Mori

併　任：静岡県立大学薬学部分子臨床薬理学 特任教授
　　静岡県立総合病院 腎臓研究科 部長
学　位：博士（医学）
資　格：医師

【企業・自治体へのＰＲ】
○腎疾患（急性腎障害 (AKI)、慢性腎臓病 (CKD)、糖尿病性腎症など）、高血圧、心不全、そしてバイオマーカーの探索と臨床応用研究を行っています。
○近年の医療進歩に伴い、難しい病気が治る方も増えてきてます。その情報を分かりやすく説明し、健康維持に役立てたいと考えてます。

■研究テーマ

- 腎不全及び心不全の発症・増悪の機序と治療に関する研究
- 糖尿病性腎症の病態解明と治療法開発に関する研究
- 新しい臨床介入試験のあり方に関する研究

■キーワード

統計学，臨床的効果，全身機能，内科，新規治療法，高血圧，肥満，糖尿病，慢性腎臓病，急性腎障害，栄養，腎臓学，バイオマーカー，リポカリン，透析，発生・分化，血管作動性物質，ナトリウム利尿ペプチド，NGAL

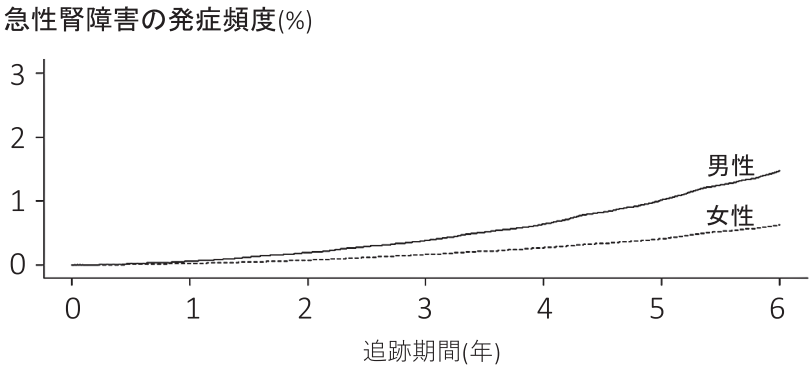
県内委員　日本内科学会 東海支部評議員（2020年-現在）

県内講演等　「AKI治療薬の現状：近年のRCTと批判的的解釈」
第32回日本急性血液浄化学会学術集会

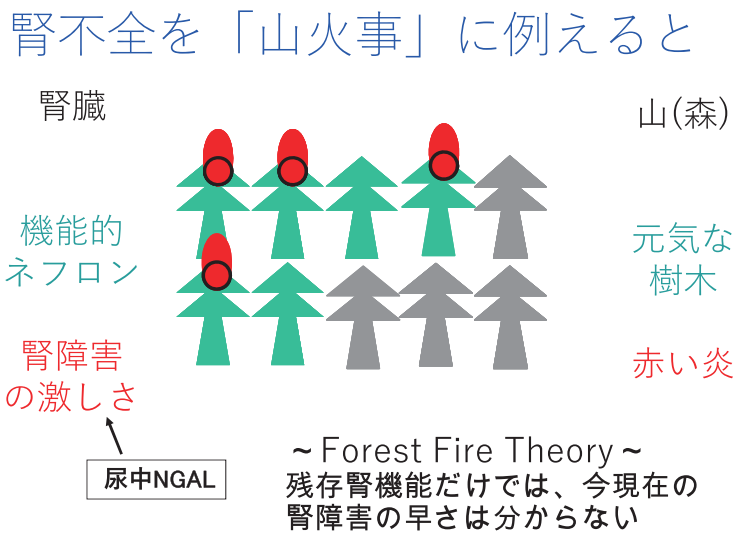
主な活動
・日本腎臓学会 がん薬物療法時の診療ガイドライン改訂委員会 SR委員（2021年-現在）
・日本腎臓学会 Clinical and Experimental Nephrology, Editorial Board（2014年-現在）
・日本内分泌学会 代議員（2010年-現在）
・日本心血管内分泌代謝学会 評議員（2006年-現在）
・日本腎臓学会 学術評議員（2006年-現在）

経歴
・ニューヨーク コロンビア大学 ポスドクリサーチフェロー（2002年-2005年）
・京都大学大学院医学研究科・腎臓内科 特定講師（2005年-2010年）
・京都大学大学院医学研究科・腎臓内科 特定准教授（2010年-2016年）
・静岡県立大学薬学部・分子臨床薬理学 特任教授（2016年4月-現在）
・静岡県立総合病院・腎臓研究科 部長（2016年4月-現在）

共同研究のシーズ
・基礎科学（分子機構）と臨床（治療・診断）のギャップを埋めるトランスレーショナル・リサーチに知見を有します。
・企業との共同研究を通じて、腎疾患・心血管疾患の早期発見、進行抑制、および新たな治療法の開発に直結する実用的な成果を生み出すことを目指します。



静岡県で健康診断を受けた方では、入院を要する新規急性腎障害の発生率は女性では男性の 0.6 倍に低下していた。またスタチンの内服や身体活動の習慣があることは、急性腎障害発生率の抑制と関連していた。(土手ら、Clinical and Experimental Nephrology 2023 から作成)



尿中 NGAL は急性腎障害の早期バイオマーカーとして国内外で保険収載された。

田中 仁啓 Yoshihiro Tanaka

学　位：博士（医学）
資　格：総合内科専門医・循環器内科医・不整脈専門医

【企業・自治体へのＰＲ】
〇走る循環器内科医（現役サブスリー）
〇分かりにくい病気の話を誰にでも分かりやすく伝えるのが得意です。
〇統計・疫学の勉強会も定期開催
〇大学教員の傍ら、現在も内科診療を行っおり、臨床試験の支援・協力も可能です。

■研究テーマ

・心房細動、心不全、骨粗鬆症、排尿障害などの高齢者特有の疾患に関する臨床・疫学研究
・癌疫学・循環器全般の疫学研究

■キーワード

予防医学、循環器疾患（心房細動、心不全、肥満、高尿酸血症、高血圧、糖尿病、脂質異常症）、高齢者

県内委員　静岡市アドバイザー検討会議への出席（2024.4.1-2025.3.31）

県内講演等
・公益社団法人静岡県看護協会地域包括ケアフォーラム第2部県民講演会講師（2025.5.24）

主な活動
・「新型コロナウイルス感染症の高齢者施設等での発生状況の分析」研究
・Europace, Editorial Board （Editorial Consultant）（2023年1月-現在）
・日本痛風・尿酸核酸学会学術交流委員
・日本痛風・尿酸核酸学会ガイドライン改訂委員
・日本痛風・尿酸核酸学会若手委員
・日本動脈硬化学会システマティックレビュー委員
・海外日本人研究者ネットワーク（UJA）理事（2022年9月-2024年6月）
・海外日本人研究者ネットワークコミュニティー連絡会部 Chair（2020年11月-現在）

経歴
・三ツ境はこだ内科 非常勤医師（２023年2月-現在）
・静岡社会健康医学大学院大学　客員研究員（2022年9月-2023年3月）
・ノースウェスタン大学不整脈研究センター リサーチフェロー（2021年1月-2022年12月）
・ノースウェスタン大学予防医学教室 博士研究員（2019年1月-2020年12月）
・金沢大学医薬保健研究域医学系 助教（2018年10月-2018年12月）
・金沢大学附属病院循環器内科 特任助教（2018年4月-2018年9月）
・JCHO金沢病院循環器内科　医員（2017年4月-2018年3月）
・金沢大学附属病院循環器内科 医員（2016年4月-2017年3月）
・金沢大学附属病院救急部 特任助教（2015年4月-2016年3月）

共同研究のシーズ
・貴社の製品・サービス、例えば、健康食品、医療機器、ヘルスケアアプリなどの開発の科学的根拠の構築に研究協力することができます。
・予防医学やデジタルヘルス分野での新たなソリューション開発において、御相談ください。

○YouTube「尿酸！痛風！あなたは大丈夫！？」

内科医たけお 心身健康TV　（たけお内科クリニック　からだと心の診療所）
（静岡社会健康医学大学院大学 准教授 田中仁啓先生×内科医たけお対談）より

https://www.youtube.com/watch?v=vNx2wNRDjio

○静岡県看護協会主催「令和7年度地域包括ケアフォーラム」県民講演会2025.5.24（土）

講演内容「心血管疾患予防」

地域の講演会講師も承ります！　是非お声掛けください。

藤本 修平 Shuhei Fujimoto

併　任：（株）メドレー Open Innovation Partner、Funds Startups（株）アドバイザー、東京大学松尾研、リハテックリンクス（株）社外取締役

学　位：博士（社会健康医学）、MBA、修士（知的財産マネジメント）

【企業・自治体へのＰＲ】

○ヘルスケアスタートアップや総合商社グループで新規事業開発の責任者を担ってきました。

○ヘルスケア領域のマーケティングリサーチ･知的財産マネジメント･ソーシャルインパクトボンド（SIB）など産学連携に関する研究を行っています。

■研究テーマ

・ヘルスケア領域のオープンイノベーション研究
・社会実装研究（産学連携・マーケティングリサーチ・消費者行動・企業分析等）
・ヘルスケアにおける産学連携
・健康情報学・ヘルスコミュニケーション（患者 - 医療者コミュニケーション）

■キーワード

アントレプレナーシップ , オープンイノベーション , スタートアップ , マーケティングリサーチ , 知的財産 , ヘルスコミュニケーション ,　リハビリテーション

県内委員
・静岡市糖尿病予防サービス導入支援事業検討会委員（2024.4.1-2025.3.31）
・藤枝市新産業創造戦略委員会委員（2025.4.1-2026.3.31）

県内講演等
第27回静岡県理学療法士学術大会基調講演（2024.6.22）

主な活動
・ヘルスケア系上場企業の新規事業開発・経営企画管掌の役員・責任者・アドバイザー等を歴任
・ヘルスケア領域のスタートアップ支援含め新規事業開発で携わった企業は100社以上
・ヘルスケア特化のエンジェル投資家として40社以上に投資

経歴
・Funds Startups株式会社 アドバイザー（2024年4月-現在）
・株式会社メドレー Open innovation Partner（2024年3月-現在）
・株式会社松尾研究所 共同研究チーム（2023年2月-現在）
・リハテックリンクス株式会社 社外取締役（2020年9月-現在）
・京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野，研究員兼 非常勤講師（2018年9月-現在）
・東京大学大学院工学研究科技術経営戦略学専攻（松尾研究室）PdM（2023年2月-2025年3月）
・株式会社トライト 経営企画・新規事業開発アドバイザー（2023年2月-2024年3月）
・東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム 協力研究員（2016年10月-2023年3月）
・豊田通商株式会社グループ ヘルスケア事業部 DXグループ 部長等級（2017年9月-2020年8月）
・株式会社リンクアンドコミュニケーション 事業開発部 マネージャー（2016年10月-2017年9月）
・株式会社メドレー 新規事業部（2015年2月-2016年9月）

共同研究のシーズ

・市場に有用なエビデンス構築の提案
上場企業・スタートアップの役員等での経営関与と研究開発の視点の両面から、経営/事業戦略目線で貴社事業に必要なエビデンス構築を提案します。

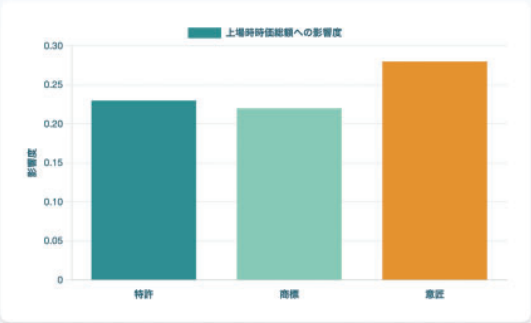
・その他、ヘルスケアに関わるSIB/PFSの策定・知財マネジメント・マーケティングリサーチに関わる共同研究が可能です。

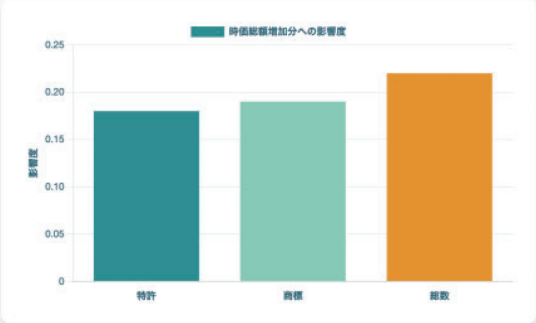
1. 企業の時価総額と知的財産マネジメントの関連について

上場時時価総額や上場後の企業成長に対して、知的財産マネジメントの重要性が示された

上場前の知財活動は、初速を決める

上場前に取得した特許、意匠、商標の数は、上場時の時価総額と明確に関連していました。これは、初期の企業価値評価において、知的財産が投資家から重要な「資産」として認識されていることを示しています。



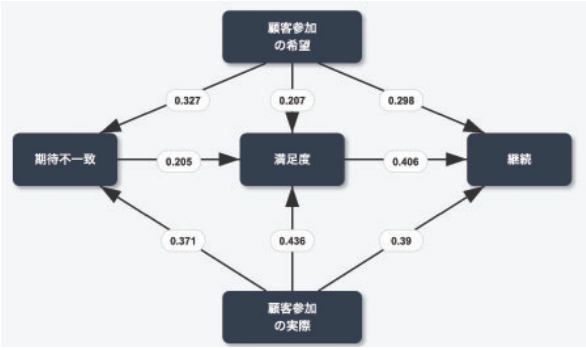


上場後の知財活動は、成長のエンジン

上場後も、特許や商標の取得を続ける企業は、時価総額がより大きく増加する傾向にありました。知的財産活動が、持続的な企業成長を牽引する重要なドライバーであることが実証されました。

2. ヘルスケアサービスにおける顧客ロイヤルティの研究

ヘルスケアサービスの継続には満足度と同様に顧客関与が重要な指標であった



森 寛子 Hiroko Mori

学　位：博士（社会健康医学）

【企業・自治体へのＰＲ】
〇地域で最後まで生き、そして看取ることに関する課題に取り組んできました。
〇超高齢社会の医療や介護、生活ケアの課題を見つけ、理解を深め、少しでも心安らかに生きるための知見を研究しています。
〇認知症、施設介護、在宅介護者の健康や、災害時の高齢者の安全もテーマです。

■研究テーマ

・災害や病気で平穏な日常が変化しても、人は新しい環境で生き続ける必要があります。そのような状況で直面する課題に向き合い、どう生き延びていくか――この「レジリエンス（困難や障害を受け入れてゆく力）」をテーマに研究しています。レジリエンスは、個人だけでなく、組織、地域社会にも適応させる概念です。
・具体的な研究は、重度嚥下障害者の経口摂取改善が持つ家族への影響、在宅介護者の課題と心理的支援、在宅介護者のQOL、地域の健康弱者や介護提供の課題など、患者と家族介護者間の課題に注目しています。
・地域社会に関し、公的データの2次解析による日本の課題、介護関連の政策評価なども研究しています。

■キーワード

レジリエンス、高齢者ケア、認知症との共生、在宅介護者、災害準備、介護終焉経験、看取り、質的研究

県内講演等
・藤枝市民大学の講師「健康長寿への暮らし“つながる”を考えてみましょう」（2024.9.28）
・藤枝市民大学の講師「認知症を共に生きる」（2025.12.20）
・静岡市管理期保健師研修会の講師
「人の一生を支え、災害有事を生きぬくために」（2025.1.29）

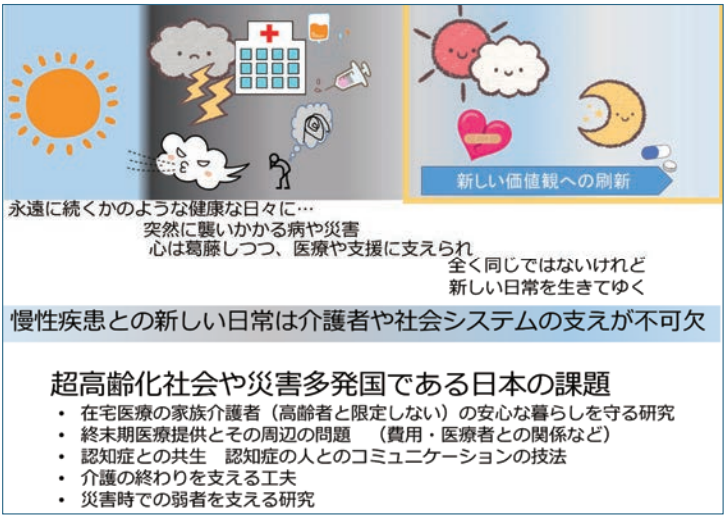
主な活動
・現在は、静岡県下の高齢者居住施設の災害時の事業継続計画（BCP）に関する調査を基に、BCP政策の評価や災害弱者の災害対策準備などを研究しています。
・また、昨今、延命が顕著な神経難病患者の疫学データの解析や、長期在宅介護者が難病患者の死を受け入れてゆく過程に関する研究を進めています。
・データに基づいた知見を教育・研究に還元し、少数集団も取り残されない、より良い社会の実現に貢献できるよう努めています。

経歴
・慶應義塾大学法学部政治学科卒業
・株式会社暮しの手帖社にて勤務
・日本画著作権管理会社にて、絵画展覧会制作などに従事
・京都大学大学院医学研究科　健康情報学　博士後期課程　修了
・東京都健康長寿センター研究所を経て現職

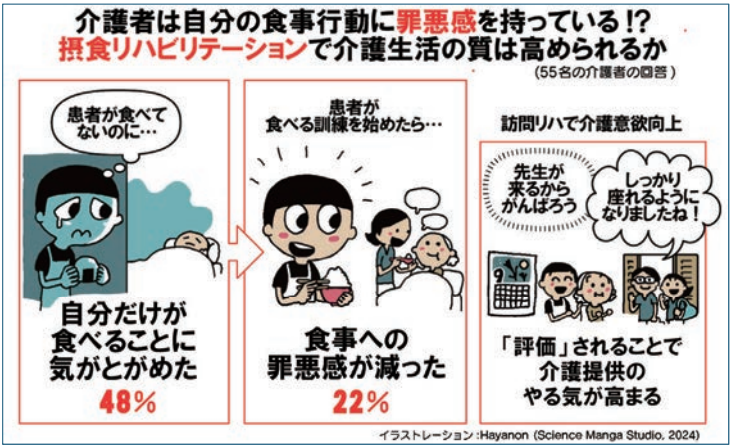
共同研究のシーズ
・高齢者施設の災害準備の導入支援
公的介護施設や民間経営の有料老人ホーム、サ高住、認知症グループホームにも、災害時に利用者の生命と健康を守るためのBCPが義務付けされました。個々の施設がとるべき災害準備計画導入を支援します。静岡県での調査データを基に、それぞれの施設種に適した具体的な導入を提案してゆきます。

・超高齢者社会に関する教育講演やセミナーの実施
自治体や一般市民向けに、認知症患者の理解とコミュニケーションの取り方、高齢期のより良い過ごし方の提案など、エビデンスに基づくセミナーを実施します。誰にとっても身近なテーマである「認知症と共に生きる」ための理解促進も、主要なテーマの一つです。
・傾聴スキルアップセミナー
インタビューをデータにする質的研究の経験から、より深く人の話を聴く技術をつたえ、人的援助につなげられる傾聴ボランティアや対人支援者に資するセミナーを提供できます。

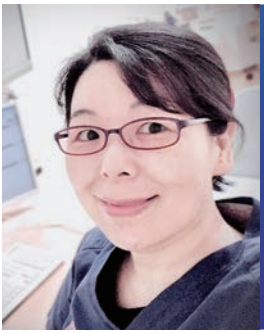
■ 研究テーマの概念図: 住み慣れた地域で共に生き、人生を終えるために



■ 最近の研究：重度嚥下障害者の経口摂取回復が持つ在宅介護者への影響



Caregiver burden and eating - related guilt during dysphagia rehabilitation: A descriptive cross - sectional time series study. JPEN J Parenter Enteral Nutr. 2024



近藤 朱音 Kondo Akane

学　位：博士（医学）
資　格：医師

【企業・自治体へのＰＲ】
〇海外での留学・臨床研修の経験から大学病院、国立病院、また院内のInternational Unit などを通して海外の方の診療（特に英語でのコミュニケーションが必要な方）に携わっておりました。
産婦人科や遺伝診療についてだけでなく英語圏の方の医療相談や海外の姉妹都市との連携などお手伝いできることがあればご相談下さい。

■研究テーマ

ライフサイエンス / 遺伝学 /

■キーワード

新生児仮死 / 虚血後脳症 / Nitric Oxide / 血管新生 / 虚血性脳症 / プラズマ医学 / 一酸化酸素 / 血管内皮 / 低酸素脳症 / 大気圧プラズマ / PGF (Placenta Growth Factor) / 発生 / メチル化状態 / 生殖医療 / 胎盤 / 生殖 / 体外受精 / エピジェネティクス / 初期胚 / 遺伝診療 / 遺伝カウンセリング

主な活動
日本遺伝カウンセリング学会 国際交流委員
日本染色体遺伝子検査学会 編集委員
日本下垂体研究会 評議員
中国四国出生前研究会 事務局
GenQA Specialty Advisory Group member
Visiting Professor at HAMKA University, Indonesia

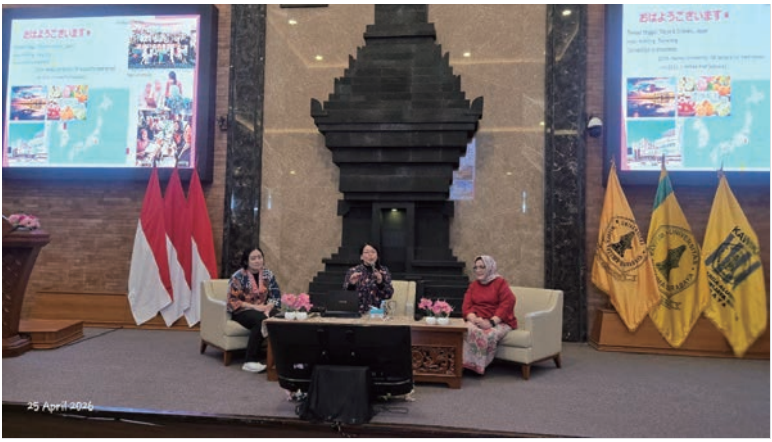
経歴
2022 年9 月 独立行政法人国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター（臨床研究部（成育）遺伝医療センター 非常勤医師
2022 年9 月 総合母子保健センター愛育クリニック産婦人科・遺伝診療部門 非常勤医師
2013 年4 月 国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター産婦人科へ出向（常勤医長）
2012 年4 月 総合母子保健センター愛育病院産婦人科へ出向（常勤医師）
2009 年4 月 東海大学医学部産婦人科講師（2022 年8 月まで）

共同研究のシーズ
周産期領域では総合周産期センターの医長として勤務しつつ自己抗体や血流動態、胎児医学、また胎児から小児までの継続した診療を目指し小児遺伝外来を通して希少難病の診断（IRUD）に携わる。
2006 年に遺伝看護師と遺伝外来を立ち上げたことをきっかけに、社会学者と遺伝診療におけるコミュニケーションの在り方について共同研究を行っており、医師以外の専門職との共同研究を継続中である。
また英国の元留学先との共同研究や英国のExternal quality control に携わり、オーストラリアへの短期研修の企画、自身のインドネシアの医学部での授業や講演など国際的に広がった人脈を通しての研究を計画している。

インドネシア ハムカ大学にて 内分泌シンポジウムにて講演

インドネシア ハムカ大学にて生殖医学シンポジウムにて講演

インドネシア ウィジャヤ・クスマ大学 開校100周年記念講演会にて講演



八田 太一 Taichi Hatta

学　位：博士（医学）

【企業・自治体へのＰＲ】
○地域職域の健康課題から先端的な医療の倫理的課題まで、社会的関心が高いテーマを扱っています。
○自治体、病院、大学、企業が関与する社会的倫理的課題の可視化や調査など、色々と御相談ください。

■研究テーマ

専門分野は主に２つあります。
○混合研究法（Mixed Methods Research）：量的研究（統計など）と質的研究（インタビューなど）の両方を組み合わせ、より多角的に研究を進める手法。
○生命倫理学：医療や生命科学に関わる倫理的・法的・社会的な課題についての調査研究。

■キーワード

混合研究法、研究方法論、研究倫理、生命論理

県内委員　静岡県立総合病院臨床研究倫理委員会外部委員（2022年4月-現在）

県内講演等　静岡赤十字病院倫理セミナー（2025.2.4）
静岡県立大学看護学研究科FD研修会（2023.2.15）

主な活動
・「事業所における健康づくりに関する研究」を実施
（静岡県富士健康福祉センターとの共同研究）
・「混合研究法や研究方法論」の講義やワークショップ
（京都大学、青森県立保健大学、日本混合研究法学会など）
・「臨床研究や研究倫理」に関する研修
（静岡赤十字病院、静岡県立大学看護学研究科など）
・「先端的な医療や科学技術の倫理的課題」に関する講演
（名古屋高等学校、NHK文化センターなど）

経歴
京都大学 iPS細胞研究所 上廣倫理研究部門 特定助教
（2018年4月-2021年3月）
京都大学 iPS細胞研究所 上廣倫理研究部門 特定研究員
（2014年4月-2018年3月）
京都大学 探索医療センター 探索医療臨床部 教務補佐員
（2010年4月-2014年3月）

共同研究のシーズ　例えば、以下の協力・支援が可能です。
・製薬・医療ベンチャー企業：臨床研究、患者データ解析、インフォームド・コンセントや説明文書の設計など、研究や倫理実務の支援
・健康・福祉関連NGO／公的機関：地域保健調査、福祉評価研究、健康教育プログラムの設計、事業やサービスで収集した情報の統合的分析
・教育機関・大学等：混合研究法教育や研究倫理講座を通じた学術人材育成
・IT・ヘルステック系企業：ユーザー調査や社内調査によるサービスやプロセスの信頼性向上に資する量的・質的エビデンスの探索

先端的な医療を受ける前に考えておきたいこと

健康管理・政策学領域　講師 八田太一

先端的な医療：再生医療/細胞治療

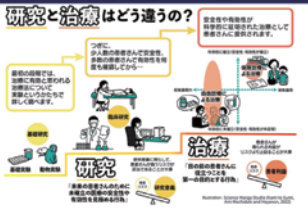
- 損傷した組織や臓器を修復、再生、または機能を改善するための医療技術
- これまで治療が難しいとされてきた多くの疾患に対して新たな希望をもたらしている

パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病、脳卒中、脊髄損傷、多発性硬化症、デュシェンヌ型筋ジストロフィー、糖尿病、炎症性腸疾患、肝疾患、心疾患、骨疾患、腎疾患、移植片対宿主病、敗血症、呼吸器疾患 など

Acta Med Iran. 2012;50(2):79-96.

➢健康寿命の延伸を目指す医療技術
➢倫理的・法的・社会的な課題もある

治療と研究の違いを知る



より詳しく知りたい方はスキャン

＜出典＞京都大学IPS細胞研究所 https://www.cira.kyoto-u.ac.jp/j/pressrelease/news/220902-000000.html

中身を読みたい方はスキャン

OptiStem, Jamie Hall, Ken MacLeod, Edward Ross, Cathy Southworth (2012) "Hope Beyond Hype - A comic about stem cells from discovery to therapy!" [翻訳: 高崎佳代, 藤澤空見子, 武藤奈織]
https://www.eurostemcell.org/hope-beyond-hype-japanese

専門学会が発出している情報をチェック

再生医療　ポータル　検索

https://saiseiiryo.jp/

➢ 現在実施中の治験(臨床研究)、保険適用の再生医療(再生医療等製品)

受ける前にもう一度チェック

- ☐その治療は保険適用ですか？
- ☐予想される副作用はどのようなものですか？
- ☐医師からは、他の選択肢の説明はありましたか？
- ☐その治療を受ける際の注意事項はありますか？
- ☐その治療にかかる費用はどのくらいですか？
  - ☐1回の治療費および総額
  - ☐外来受診、画像撮影、リハビリ、サプリメントなど
- ☐副作用や体への影響が出た場合の対応は？
  - ☐どの医療機関が対応するのか
  - ☐その費用は誰が払うのか

＜参考＞
再生医療学会「みんなのための再生医療をチェックするリスト」
https://saiseiiryo.jp/files/docs/saisei_checklist.pdf

まとめ

1. 先端的な医療の特徴
   - ➢現在の治療法では十分な効果が期待できない病気を対象
   - ➢研究段階の医療技術が使われることがある
   - ➢安全性を担保するための規制や運用の不足
2. 先端的な医療を受ける前に
   - ➢保険診療であるかを確認しよう
   - ➢費用を比較しよう
   - ➢健康被害への対応に注意しよう

静岡社会健康医学大学院大学令和5年度公開講座(2024/03/09)

吉岡 貴史 Takashi Yoshioka

学　位：博士 (医学)、修士 (専門職)
併　任：慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 客員講師、昭和医科大学臨床疫学研究所 兼任講師
資　格：医師、日本医師会認定産業医

【企業・自治体へのＰＲ】

○健康の商業的決定要因というテーマで、人の健康増進と企業成長の両立を目指すための研究活動を行っています。
○医療経済評価に関する系統学習と研究・実務経験があり、質の高い費用対効果分析実施のサポートができます。
○臨床家・保健行政実務家向けの臨床疫学・費用対効果分析教育コンテンツを豊富に持ち合わせています。

■研究テーマ

・健康の商業的決定要因 (特にアルコール、タバコ、ギャンブル、市販薬など物質依存・行動嗜癖に関するもの) に関する社会疫学研究
・医薬品・医療機器の費用対効果研究
・泌尿器科 (特に尿路結石症・排尿障害) の臨床疫学研究

■キーワード

公衆衛生 , 社会疫学 , 医療経済評価 , 依存症 , アルコール対策 , タバコ対策 , ギャンブル対策 , 尿路結石 , 下部尿路症状

主 な 活 動

・日本臨床疫学会 上席専門家
・日本臨床疫学会 産学連携委員会
・日本泌尿器科学会 保険委員会・保険実行委員会・保険常任委員会
・日本アルコール・アディクション医学会 学術評議員

経　　歴

・岡山大学泌尿器科 医員（2015年4月-2016年3月）
・福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンター 助教（2017年4月-2022年3月）
・慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 特任助教（2022年4月-2023年10月）
・慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 特任講師（2023年11月-2025年3月）
・昭和医科大学臨床疫学研究所 講師（2025年4月-2026年3月）

共同研究のシーズ

・企業の皆様：疫学と健康経済学の立場から、企業の商業活動による正負双方の健康影響を明らかにし、社会の中で人の健康増進と企業の成長を両立するためのエビデンス創出を目指した研究活動を行っています。
・自治体の皆様：医薬品、医療機器、公共政策の費用対効果分析の実施をサポートします。
・その他: 臨床疫学や健康経済学(費用対効果分析)における教育コンテンツを豊富に持ち合わせており、講義・セミナーを通してリテラシー向上とEBM/EBPMに精通した人材育成に貢献します。

研究（アルコール・ギャンブル・タバコ）に関する報道

(A)

(B)

(C)

(A) 岩永直子. BuzzFeed. https://www.buzzfeed.com/jp/naokoiwanaga/storong-chuhai-hazardous-alcohol-use
(B) Psychreg News Team. Psychreg. https://www.psychreg.org/night-shift-work-linked-higher-gambling-rates-problem-gambling/
(C) 石田達彦. Yahoo!ニュース. https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/e2f32d2870621ac94dce10314e5139e542185036

費用対効果分析の実例

第１巻第６号

第Xa 因子阻害剤使用中の生命を脅かす又は止血困難な出血に対するアンデキサネットアルファの費用対効果評価

吉岡 貴史，池谷 怜，阿久根 陽子，白岩 健，後藤 励，福田 敬

第３巻第９号

化学療法歴のないHER2陰性かつCLDN18.2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌に対するゾルベツキシマブの費用対効果評価

吉岡 貴史，田森 帆乃夏, 眞喜志 まり，森井 康博，阿久根 陽子, 白岩 健, 後藤 励, 福田 敬

C2H. Academic Technology Assessment Group(ATAG) Reports. https://c2h.niph.go.jp/results/atag.html

日本臨床疫学会での教育活動

WT1：はじまりはいつもletter: 執筆ノススメ

吉岡 貴史（慶應義塾大学 医学部衛生学公衆衛生学教室 特任助教）

詳細を見る ∧

●講演概要

臨床研究のFINER/FIRM2NESSを磨くためには、論文を適切に解釈する必要があります。また論文化には「書く」という障壁が存在します。実はletter執筆は、(1) 適切な論文の解釈、(2) 論文執筆、の2つを含むため、臨床研究の第一歩としてぴったりなのです。本ワークショップでは、事前学習資料通して臨床研究を解釈し、letterを執筆することを第一の目標とします。さらに、letterをきっかけに臨床研究の原著論文を出版した先人の講演を準備しました。この講演をきっかけに、letter執筆から始まる臨床研究に興味を持つことを第二の目標とします。

日本臨床疫学会 第6回年次学術大会 ウェブサイト. https://www.clinicalepi.org/jsce2023/lt_wt/index.html#wt_a1

佐々木 八十子 Hatoko Sasaki

学　位：博士（社会健康医学）

【企業・自治体へのＰＲ】

〇母子の健康、医療の質改善、転倒予防といった多岐にわたるテーマを専門としております。

〇学術研究にとどまらず、診療ガイドライン評価など外部活動を積極的に行い、社会全体への貢献を目指しています。

■研究テーマ

エビデンスに基づく介入と実践による母子の健康やQOLの向上
医療の質向上のための組織分析

■キーワード

公衆衛生学 , 疫学 , 母子保健 , 医療組織分析 , 健康関連の生活の質

県内講演等

・静岡社会健康医学大学院大学　公開講座「患者と医療者が一緒につかう健康の道しるべ：診療ガイドラインとは？」（2025年3月）
・静岡県健康福祉部健康政策課「地域診断研修」講師（2022年5月-現在）
・富士市役所保健部健康政策課「健康ふじ21推進のための研修会」講師（2023年1月）

主な活動

・低リスク出産の医療の質指標を用いた医療ケアの改善に向けたプログラムの運用
・エビデンスに基づく入院患者の転倒予防に影響を与える要因：探索的研究
・新型コロナウイルス感染症の高齢者施設等での発生状況の分析

経歴

・京都大学大学院医学研究科 非常勤講師（2021年4月-現在）
・国立成育医療研究センターエコチル調査 研究員（2018年4月-2021年3月）
・国立成育医療研究センター政策科学研究部 研究員（2012年4月-2018年3月）
・東京女子医科大学母子総合医療センター 研究員（2010年4月-2012年3月）

＜委員＞
・国立成育医療センター データマネジメント検討ワーキンググループ委員（2021年4月-現在）
・Cochrane Japan学術委員（2020年4月-現在）
・公益財団法人日本医療機能評価機構 診療ガイドライン作成評価部会員（2018年4月-現在）

共同研究のシーズ

・病院・施設の組織文化が安全性やケアの質に与える影響を分析
（組織診断ツール＋臨床データを統合し、医療安全・健康職場活動の効果を可視化）
・病院・介護施設における取り組みの持続可能な仕組みづくり
（実装科学フレームワークに基づき阻害・促進要因を分析し、多面的なプログラムを導入して実施率・遵守率を高め、安全性やケアの質改善効果を高める）

エビデンスに基づく医療・ヘルスケア改善
共同研究シーズ案

組織分析・改善支援

病院・施設の組織文化分析
安全性・ケアの質向上

組織診断ツール・臨床データ統合分析
による現状の可視化

持続可能な仕組みづくり

実装科学に基づく実装阻害・促進要因分析

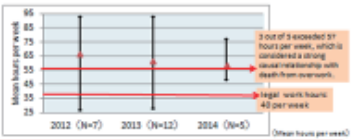
多面的プログラムにより
実施率と遵守率を高め、改善効果を最大化

研究の強み・特徴

●エビデンスベースの実践的アプローチ　●母子保健から高齢者まで幅広い対象　●医療ケア組織の質改善に焦点

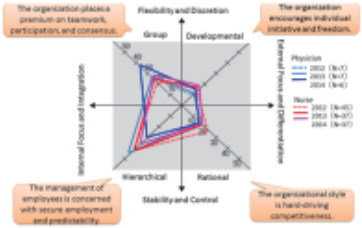
組織分析プロファイル

労働時間

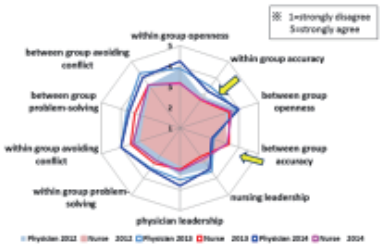


	2012	2013	2014
Facility A	66.3 (min 27.0- max 93.0)	61.0 (min 28.0- max 92.5)	58.4 (min 46.0- max 76.8)
INTACT	70.4 (min 25.0- max 119.5) (N=290)	70.1 (min 28.0- max 119.0) (N=306)	—

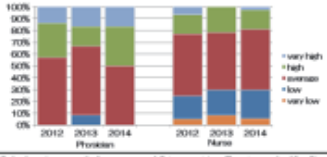
組織文化分析



コミュニケーション・リーダーシップ



労働意欲



※ Calculated percentile from mean of 9 items with a 7-point scale (0~6) to categorise "very low ~ very high", and showed the individual relative position.

	2012			2013			2014		
	N	Mean	Min-Max	N	Mean	Min-Max	N	Mean	Min-Max
Physician	7	3.3	2.0-4.6	7	3.3	1.9-4.7	6	3.4	2.8-4.4
INTACT	316	3.5	1.1-6.0	313	3.4	0.3-6.0	-	-	-
Nurse	45	2.4	0.0-4.2	37	2.6	0.4-4.0	37	2.5	0.0-4.0
INTACT	1687	2.6	0.0-6.0	1628	2.6	0.0-6.0	-	-	-

佐藤 清香 Sayaka Sato

学　位：博士（生活科学）

【企業・自治体へのＰＲ】
○栄養疫学，栄養教育を専門とし，食を介して人々の健康の支援に資する研究に取り組んでいます。
○講演・研修も承ります。健康・栄養をテーマとした企業研修・社内講演，フレイル予防や食生活改善をテーマとした一般向けセミナー講師　など

■研究テーマ

・地域在住高齢者のライフイベント（退職等）が影響を与える食行動や栄養状態の変化に関する研究
・地域在住高齢者に対する行動科学に基づいた栄養教育
・地域活動の参加による社会的ネットワークと健康に関する研究
・しずおか研究（静岡多目的コホート研究事業）
・減塩調味料の利用による降圧効果検証のための介入研究

■キーワード

栄養疫学，栄養教育，行動科学，ヘルスプロモーション，フレイル，ライフスタイルの変化，地域在住高齢者
Nutritional epidemiology, Nutrition education, Behavioral Sciences

県内委員　島田市食育推進委員

県内講演等
＜住民向け＞
「毎日の食事でフレイル予防！」（富士山の日健康福祉交流プラザまつり）
＜専門職向け＞
「効果的な食環境整備の推進について」（中部健康福祉センター栄養連絡会）
「効果的な事業立案の考え方」（県公衆栄養研修）

主な活動
・日本健康教育学会 若手の会委員長
https://nkkg.eiyo.ac.jp/cn3/corner341/pg1022.html
・一人暮らしの高齢者向け会食会の献立作成

経歴
・静岡社会健康医学大学院大学, 客員研究員（2024年4月-2025年8月）
・高崎健康福祉大学, 講師（2024年4月-2025年8月）
・お茶の水女子大学, 非常勤講師（2023年10月-2025年3月）
・日本学術振興会特別研究員, 特別研究員DC（2023年4月-2024年3月）
・米国ミネソタ大学，University of Minnesota, visiting scholar（2020年3月-2022年12月）

共同研究のシーズ
・高齢者・中高年向け栄養設計
・共同研究・データ活用（コホート研究やアンケート調査に基づく科学的エビデンス提供，自治体や地域と連携したフィールド実証型共同研究への参加など）
・健康経営・ウェルビーイング分野での従業員向け栄養改善プログラム設計

○地域在住高齢者を対象とした栄養教育で用いた教材例

○一人暮らしの高齢者向け会食会の献立例

献立	1	2	3	4	5
主食	ごはん	たけのこご飯	たけのこご飯	栗おこわ	ちらし寿司
汁物	味噌汁	吸い物	吸い物	吸い物	吸い物
副食	菜の花と鶏むね肉の治部煮	根菜と鶏肉の炊き合わせ	唐揚げ南蛮	じゃがいもと豚バラの塩きんぴら	炊き合わせ
	蒸し野菜肉みそかけ	そら豆とたまねぎのかき揚げ	小松菜とわかめのだし浸し	れんこんだんごの揚げだし	漬物
	柚子大根	姫皮の梅和え	ミニトマトの和風マリネ	ほうれんそうとエリンギのごま浸し	ー
デザート	二色かん	オレンジ	オレンジゼリー	柿、栗羊羹	りんご

佐藤 洋子 Yoko Sato

学　位：博士（医学）
資　格：歯科医師

【企業・自治体へのＰＲ】

○医療ビッグデータ解析を通じ、疾病の早期発見・予防および治療効果の評価に関する研究に取り組んでいます。併せて、地域の健康課題の抽出や施策評価も行っています。
○企業・自治体が保有するデータの分析・利活用を支援します。データの適正な取り扱いや解析手法について、実務に即した研修等も承ります。
○県民の口腔の健康維持・向上に向け、オーラルヘルスプロモーションの推進に尽力しています。（講演テーマ「歯みがきは裏切らない」）

■研究テーマ

・静岡県国保データベース（SKDB）を用いた疫学研究
・口腔と全身の健康に関するエビデンス創出のための研究
・健康寿命延伸のための市町別生活習慣等のモニタリング
・ICD-11（国際疾病分類第11版）の特性を生かした地域連携クリティカルパスの開発

■キーワード

医療ビッグデータベース、リアルワールドデータ、医療統計学、オーラルヘルスプロモーション（歯科公衆衛生学・予防歯学）、GIS分析、健康の社会的決定要因（SDH）、医療アクセシビリティ、国際疾病分類（ICD）

県内委員

・静岡市アドバイザー（2024.4.1-2025.3.31）
・静岡県歯科保健医療提供体制分析・活用事業ワーキング・グループ委員（2024.7.1-2026.3.31）
・伊豆の国市歯と口腔の健康づくり推進委員（2025.4.1-2027.3.31）
・富士市住民歯科会議アドバイザー（2026.4.1-2027.3.31）

県内講演等

・令和５年度歯科公衆衛生研修会（オンライン開催）講師（2023.5.25）
・静岡県賀茂健康福祉センター令和５年度健康づくりリーダー研修会（2023.8.25）
・一般社団法人静岡県歯科医師会役員・群市区歯科医師会役員会合同協議会講演会 （2023.9.24）
・静岡県健康福祉部令和６年度歯科保健医療提供体制分析・活用事業報告会講演 （2024.6.11）
・静岡県賀茂健康福祉センター令和６年度地域保健福祉活動研修会での講話（2025.2.28）
・公益社団法人静岡県看護協会県民講演会講師（2025.5.24）
・県民の日健康福祉交流プラザまつり歯科予防に関する講演（2025.8.24）
・賀茂健康福祉センター 2025年度第4回健康増進指導技術連絡会議での講演（2025.11.9）
・静岡県西部健康福祉センター(西部保健所） 令和７年度 地域保健福祉研究会での講話（2026.1.30）
・公益社団法人静岡県看護協会地域ケアフォーラムでの講演（2026.4.25）
・静岡市葵区生涯学習センター主催事業医療講演会（2026.6.5）

主な活動

・静岡県・静岡社会健康医学大学院大学「口腔と全身の健康に関するエビデンスコラム集」「お口のケアと歯の治療リーフレット①～③」編集

経歴

・昭和大学歯科補綴学講座兼任講師（2017年4月-現在）
・国立保健医療科学院保健医療情報政策研究センター客員研究員（2017年4月-現在）
・静岡県立総合病院リサーチサポートセンター統計解析室（2020年4月-2021年3月）
・防衛医科大学校防衛医学研究センター助教（2017年4月-2020年3月）
・国立保健医療科学院研究情報支援研究センター研究員（2015年4月-2017年3月）

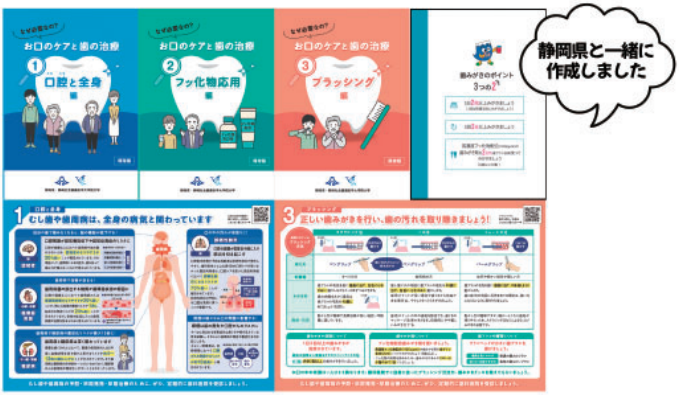
共同研究のシーズ

・静岡県国保データベースSKDB（静岡県全35市町の国保・後期高齢者医療健加入者台帳・レセプト・健診データを統合した医療ビッグデータ）
・JMDC保険者データベース（健康保険組合加入者台帳・レセプト・健診データを統合した医療ビッグデータ）
・健康寿命延伸のための市町別生活習慣等のモニタリング研究における「食と生活習慣チェック」データ

▶ 口腔と全身の健康に関するエビデンスコラム集・お口のケアと歯の治療リーフレット

- 口腔と全身の健康の関係について複数の研究結果をもとに、わかりやすく解説しています。
- 事業所などでの配置や配布をご希望の場合は、ご連絡ください。　（数に限りがある場合があります）

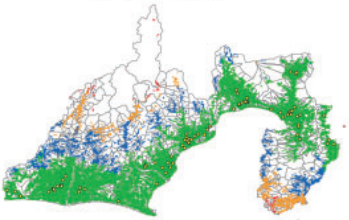
PDF



静岡県と一緒に作成しました

▶ GISを用いたアクセシビリティ解析

GIS（地理情報システム）を用いた、薬物的行動調整治療を実施している歯科医療機関への地理的アクセシビリティの可視化



地理的アクセシビリティは、GIS を用いた到達圏解析により評価した。居住地は人口を付与した 500m メッシュの重心点で代表させ、道路網に基づく自動車移動時間により各医療機関からの到達圏を算出した。カットオフ時間は 30 分、60 分、90 分とし、各メッシュを最寄り医療機関への最短到達時間に基づき分類した。医療機関を第、0-30 分を緑、30-60 分を青、60-90 分を橙、90 分以上または到達圏外をかで示す。詳細は地図を示す。

▶ 「歯みがきは裏切らない」講演活動

地域住民向けの健康講座では
「歯みがきは裏切らない」をキーワードに、
口腔の健康に関する講演活動を行っています

▶ 「食と生活習慣チェック！」を企業・事業所などでの健康経営にご活用ください！

食習慣・生活習慣を振り返り、健康づくりに役立てるための調査です

栄養素の摂取状況や食習慣の改善策を**チェック！**

今後10年のがん・循環器疾患リスクを**チェック！**（40～69歳対象）

詳細はこちらをご覧下さい

- グループコードの登録方法
- 集団結果票のイメージ
- そのほかQ&A　など

https://monitoring.s-sph.ac.jp/groupcode

グループコードの利用で企業・事業所等での集団集計ができます

- グループコード単位で **集団集計結果** をお返しします
- これまで **150以上** の企業・団体が利用しています
- 集団結果票の活用方法や **健康づくりの取り組みのご相談** も承ります

新屋 裕太 Yuta Shinya

学　位：博士（教育学）
併　任：静岡県立総合病院 客員研究員、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 協力研究者

【企業・自治体へのＰＲ】
○早産児などのハイリスク児や難聴児の発達の理解・支援を目指した研究を行っています。
○臨床発達心理士として、乳幼児期の発達に関する科学的知見の社会還元・社会実装にも積極的に取り組んでいます。

■研究テーマ

・言語・認知機能の発達過程の個人差や、そのメカニズムの解明に関わる研究を行っています。特に、乳児期からの「ことば」の獲得と社会的環境（親子のコミュニケーション、地域・文化差、メディア環境など）の関わりに関心を持って研究を進めています。
・近年は、計算機モデル（AI）の手法や、ウェアラブルセンサによるビックデータを活用しながら、ハイリスク児や難聴児の早期評価・早期支援に繋げるための研究にも取り組んでいます。

■キーワード

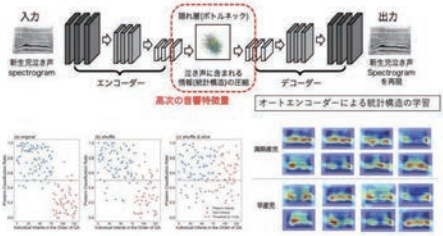
泣き声，音声コミュニケーション，母語獲得，注意，睡眠，自律神経機能，発達検査，深層学習，早産児，低出生体重児，難聴児，神経発達症

主な活動
・委員会活動（日本赤ちゃん学会 評議員、日本発達神経科学会 評議員、日本発達心理学会 国際研究交流委員・ウェブ委員など）
・乳幼児を対象とした発達検査の改訂（発達科学研究教育センター「KIDS乳幼児発達スケール」）
・保育者、保護者、企業向け研修の講師　（全国認定こども園研修研究機構、ポピンズ、子育て親塾、人間発達研究所、資生堂・コドモロジー、ユニ・チャームなど）
・乳幼児向けの絵本・教材の監修（主婦の友社「いないいないばあ！えほん」、ベネッセ「こどもちゃれんじbaby」など）
・教科書・学術書籍の執筆、子育て・保育関連の記事の監修（東洋経済オンライン、初めてのひよこクラブ、赤ちゃんとママ社など）

経歴
・東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 研究員～特任助教（2017年-2025年）
・白梅学園大学（2017年-2018年）東京女子大学（2022年-2024年）、埼玉大学（2020年-2023年）、多摩大学（2018年-2023年）、早稲田大学（2023年-2025年）、等の非常勤講師
・京都大学大学院教育学研究科 特別研究員（2014年-2016年）

共同研究のシーズ
乳幼児の発達・学習に関わる科学的知見や実験・調査データに基づく子育て支援や、保育・教育現場におけるプログラムの提案、商品・アプリ開発などの協力が可能です。

○ AI やウェアラブルセンサ / スマホを活用した研究



泣き声の深層学習（AI）による早産児の発達評価

ウェアラブルセンサ/スマホによる音声の収集・分析

○子育て関連記事の監修（ひよこクラブ「「魔の 3 週目」「魔の 3 カ月」の攻略法」）

巻末言

高齢社会の中で、精神と身体を健やかに保つ健康寿命の延伸が命題となっています。病気の原因の解明に加え、科学的根拠に根ざした対策の提言とその効果の実証、社会全体の対策としての実装化が必要であり、何れも社会健康医学の重要なテーマです。

私は医学部で長く血栓形成・溶解機構を研究してきました。血栓形成は止血に不可欠な生理機構で、その機能不全は異常出血を来します。一方血栓形成の制御機構や溶解機構の異常では、脳梗塞や心筋梗塞等の血栓症を引き起こします。例えば、肥満や脂質異常症のような生活習慣病では血栓溶解能が低下し血栓症のリスクが高まるのです。逆に生活習慣の改善や有酸素運動の継続により溶解能は向上し、これらの怖い病気を予防できます。近年これらの血栓症発症の分子機構の解明や予防法の確立は進みましたが、他の多くの疾患同様研究成果の実社会への還元は不十分です。コホート研究やビッグデータを用いて実社会でのデータを集積しつつ、ヘルスコミュニケーション学や行動医科学等の社会健康医学の専門技術を駆使して、広く一般社会での血栓症予防に繋げるべく努力しております。

効率的な実装化には多くのプレイヤーの参画も必要です。今、医療や健康分野で産官学の協調が期待されておりますが、残念ながら本学の推進する研究にはまだ十分な参画が得られておりません。本冊子に示したように、本学は医学研究や実社会でのビッグデータの解析等、エビデンスに基づいた研究成果を発信し続けています。ぜひ産業分野の方々にもご参画いただき、協調して社会健康医学の実践による健康社会の実現に貢献できればと願っております。

浦野 哲盟　Tetumei Urano
理事（教育研究担当）/副学長

1981年 浜松医科大学医学部卒
米国ノートルダム大学研究助手等を経て、
2001年から浜松医科大学医生理学（旧第2生理学）講座教授
2016年から同副学長および図書館長を兼務
2021年から同名誉教授、十全オアシスクリニック院長
専門は、生理学・血栓止血学

今、健康社会の実現にはさまざまな方法で貢献することができます。

私自身、研究者・医師として活動とは別に、ラグビーの安全な普及活動に関わっています。関西ラグビー協会及び静岡県ラグビー協会医務委員として、重篤な頭頸部外傷の予防、熱中症の予防等を通じてラグビー選手の健康と安全を守る活動を続けています。２０１９年に開催されたラグビーワールドカップでは静岡袋井エコパスタジアムの４試合でマッチドクターを担当しました。現在もジャパンラグビートップリーグ「LEAGUE ONE（リーグワン）」の静岡ブルーレヴズの主催試合や中高生の試合で怪我の対応や脳震盪の重症化予防に関わっています。またラグビー協会は以前から熱中症の啓発活動を続けており、私も中学生やスポーツ指導者、また最近では市民や企業の方を対象に、スポーツ時や労働環境下での「熱中症予防」について講演しています。健康社会の実現にはさまざまな方面からの貢献が必要です。専門である生理学の知見を活かし、スポーツ選手や中高生、市民の皆様の体調管理や安全対策に貢献できることを大変幸せに思っています。

皆さんも、本学で社会健康医学を学んでみませんか？本学ではいろいろな職種の方に入学を薦めています。社会人の方がそれぞれの専門性を伸ばし、同時に他分野の知識と技術を獲得するための reskilling の場として、金曜日午後と土曜日のみに開講される本学は最適と自負しております。本学教職員一同で皆さんの新たな挑戦を支援したいと思います。

以上、理事（教育研究担当）の立場からの宣伝でした。